

水產會法案特別委員會會議事速記録第二號

大正十年三月八日(火曜日)午後一時三十九分開會
○委員長(伯爵吉井幸藏君) 御席へ願ヒマス、ソレ
デハ先日ニ引續キマシテ會議ヲ開キマス

○男爵本田親濟君 私ハ水產法案ニ載セテアリマセ
スコトヲチヨット御尋ネ申上ゲテ、然ル後ニ二三箇
條ニ付テ政府委員ニ御尋ネシタイト思ヒマス、過日
政府委員ノ御説明デアリマシテ大ニ水產業ノ改良發
達ヲ圖ル、即チ遠洋漁業ヲ獎勵スルトカ、或ハ保護
スルトカ、船舶ノ改良、改造ヲ期スルトカ、或ハ之ヲ
調査スルトカ、監督ノ方法ヲ講ズルトカ、其他種々
水產ニ關スル必要條件ヲ縷陳サレマシテ、今回此法
案ヲ提出イタサレタ理由ハ諒解イタシマシテゴザイ
マス、而シテ此法案決定メラル所ノ水產會ハ郡市
水產會、道府水產會、帝國水產會ト云フヤウナ工合ニ
三段ニ組織シテ事業ヲ統一サレル譯デアリマス、從
テ水產業ト云フモノガ之ニ依ッテ自然統一サレル譯
ニナルノデハナイカト思ヒマス、勿論水產業ハ統一
サレナクテハナラヌコトダト思ヒマス、然ルニ是マ
デ安置漁業ノ命令ト云フモノバ各縣ニ於テ違ッテ居
ル、或ハ何人ニモ許ス所ガアル、或ハ其縣ノ組合デナ
クテハ許サレヌ所モアルト云フ工合デ、是ハ何レ内
務省デ統一シナケレバナラヌコトダト思フノデアリ
マスガ、此法案ヲ設ケラル、以上、農商務省デハ之ニ
對シテドウ云フ方針ヲ有ッテ居ラル、カ、ソレヲ第
一ニ承リタイト思ヒマス、次ニ此第二條、水產業ハ法
人トストアリマス、私ガ承リマス所デハ元ノ草案ニ
依ルト二條ニ於ケル水產會ノ公法人トストアルトカ
云フコトニ承ッテ居リマスガ、政府委員ニ於カセラ
レテモ頻リニ公法人ト言ハレテ居ッタヤウデアリマ
スガ、法人ト言ヘバ公法人ト私法人ト含ンデ居ラナ
ケレバナラヌ譯デアラウト思ヒマス、而シテ私法人
ナラバ民事訴訟ノ上ニ於テ強制執行ガ出來ルノデア
ルカラ、町村稅ト同ジ徵收法ハ要ラヌ譯デアルガ、何
故元ノ儘ニ公法人トセズニ法人トナサレタカ、其理
由ヲ承リタイ、第三ニ七條ノ所ニ水產會ハ郡市水

產會云々トアリマス、之ヲ農產會ニ對照シテ見マス
ト、農產會ノ方デハ町村會カラ初ッテ上ニ及ボシテ來
テ居ル、此分ハ郡市ヲ單位ニシテ居リマスガ、農產會
ノ法則ト格別ノ違ヒハナクシテ行ハルベキ法則デア
ラウト思ヒマス、ニ、町村水產會ヲ認メナイト云フ
コトハドウ云フ譯デアルカ、ソレヲ御尋ネ致シマス、
併セテ又此水產會ハ是マデノ水產組合トカ、會デナ
イ組合デス、及ビ水產組合聯合會、又漁業組合ヲ網
羅シテ居ルノデアアルカドウカ、若シ網羅シナイトス
ルナラバ其理由ヲ御説明ヲ願ヒタイ、第四ニ郡市水
產會ヲ設ケラル、トスレバ其數ハドウ位出來ル御見
込デアリマス、ソレヲ御尋ネ致シマス、過日ノ御説
明ニ依リマス、豫算ニ一萬五千圓ヲ出シテ居ル其中
八千五百圓ヲ分付スルトカ言ハレマシタガ、ソレハ
ドウ云フ風ニ分配サレルノカ、ソレヲ承リタイ、而シ
テ其高ハ誠ニ少イヤウデアリマス、一箇所ニド
ノ位ヅ、ニ分付サレ得ルモノカ、ソレヲ承リタイ、又
斯ウ云フ少額ヲ補助シテハ如何程ノ效力ヲ生ズルモ
ノトモ思ハレヌ、ソレデスガ、兎ニ角自分ノ思フ所デハ
サウ云フ少額デハ效力ガ甚ダ少ナクハナイカト思ヒ
マス、既ニ斯ノ如キ方法ヲ設ケラル以上ハ、何ト
カ素人ガ見テモ稍々效力ガアルヤウニ思ハル、所ノ
補助ヲシテ貰ヒタイト思フノデゴザイマスガ、先以
テ其分付ノ方法、及ビ補助金ノ割當ヲ御示シテ願ヒ
タイ、ソレカラ第五ニ、第二十七條ヲ見マス、帝國水
產會ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ云々、水產會ニ準ズ
ル法人トスウアリマス、ソコ迄ハ宜イトシテモガ、
其次ノ其他ノ團體ヲ會員トナスコトヲ得トスウ
アリマス、水產會ニ準ズル法人ハ宜シイケレドモ
斯様ニ其他ノ團體トアリマス、即チ法人以外ノ團
體ヲ網羅スルコトニナルノデハアリマス、此第二
條ノ「水產會ハ法人トス」ト云フコト、矛盾スル譯ニ
ナリハシマセヌカト思ヒマスガ、右東ネテ御尋申上
ゲマス

○政府委員(村上隆吉君) 只今ノ御尋ニ御答申上ゲ
マスガ、第一ノ安置漁業ニ關シテハ銘々各府縣ニ依ッ
テ異ナッテ居ル、隨テ或地方デハ組合ニ許可スルモノ
モアルシ、法人ニ許可スルモノモアルシ、統一ヲ缺イ
テ居ルヤウデアアルガ、ソレデ宜シイカ如何ニスルカ
ト云フ御尋ト承知イタシマシタガ、ソレニ付キマシ
テハ實ハ當局ニ於テモ特ニ考慮イタシテ居ル事柄デ
ゴザイマス、安置漁業ノ主タルモノハ鰯其他ノ漁業
デアリマス、是ガ從來府縣ノ處分ニ任サレテ居
ッタト云フコトガ、果シテ宜イカドウカト云フコトニ
付キマシテハ疑ヒヲ有ッテ居ルノデアリマシテ、色々
考究イタシテ居リマス、例ヘバ非常ニ大キナ資本ヲ
有シ多大ノ人ヲ使ヒ、長イ距離ニ互ッテ網ヲ沈メル
ト云フヤウナ大漁業デアリマス、價値ノ重要ナル
事ト云ヒ又隣接府縣ノ境界近イ所ニ於キマス、各
種ノ紛爭等ニ照シマシテモ、寧ろ國デ統一スル方ガ
然ルベキデハナイカト云フ考慮ヲ致シテ居ル次第デ
アリマス、又從來ノ種々ナ慣例モアリマス、俄
カニ斷行イタスノモ、如何カト思ッテ考慮イタシテ居
リマシテ、現ニ本年ノ四月ニ地方ノ主任官ヲ集メマ
シテ、本省デ會議ヲ致シマス際ニモ、安置漁業ト明カ
ニハ書イテ居リマセヌケレドモ、是等ノ問題ニ付テ
モ自ラ何カ意見ガ出ハシナイカト云フ豫期ヲ以テ或
諮問ヲ致シテ置キマシタ、サウシテソレ等ノ諮問ニ
依リマシテ、又本省ト致シテモ研究ヲ致シテ、何トカ
相當ノ解決ヲ附ケタイト斯ウ考ヘテ居リマス、第二
ノ御尋ノ水產會法案ノ第二條ニ「法人トス」トアル
ガ、草案時代ニハ「公法人トス」ト書イテアルヤノ話
デアアルガ、何故ニ案ソノモノニハ「法人トス」トシテ
「公法人」トハ書カナカッタカト云フ御尋ニ付キマシ
テハ、當局ノ考ト致シマシテハ、初メカラ斯ウ云フ組
織ヲ致シ、斯ウ云フ仕事ヲサセマスルニハ、飽クマデ
モ公法人デナケラネバナラヌ、公法人デナケレバ到
底目的ハ達シ得ナイ、此案ノ豫期スル目的ハ達シ得
ナイト云フコトハ、其積リデ居リマシテ、又其趣旨

デ此案ヲ作ツタノデアリマス、隨テ「公法人トス」ト云フコトヲ書イタト云フ案ガ、ドノ程度ノ審査ニ於テ出マシタカハ、ハッキリ覺エテ居リマセヌガ、サウ云フコトヲ書イタラ宜クハナイカ、寧ロ明地ニシテテ居リマス、ソレダケノ趣旨ト經過ガアツタ、條文ニ「公法人」ト書キマセナカッタ理由ハ、御承知ノ通り商業會議所法ノ如キ、學說ニ於キマシテモ、大審院ノ判例ニ於キマシテモ公法人ト認メラレルモノガ、矢張り商業會議所法ノ第一條ニ於テ、「商業會議所ハ法人トス」ト書イテアリマス、詰リ我國ノ立法例デ申シマス、ト「法人トス」ト云フ人格ヲ與ヘルコトダケヲ法文ニ書イテ、ソレガ公法人ナルヤ私法人ナルヤハ、其法人ノ存在目的並ニ法人ノ全體ノ趣旨カラ判斷スルコト云フ立法例ニナツテ居リマス、又外國ノ立法例ヲ調ベマシテモ佛蘭西ノ立法例ニ於キマシテハ現ニ農業會議所ニ於キマシテハ、農業會議所ハ公法人トスト云フ條文ヲ明カニ書イテ居ル、獨逸ノ農業會議所ニ於キマシテハ、唯矢張り法人トスアツテ、公法人トスト云フコトハ更ニ明ツテアリマセヌ、併ナガラ其ノ存在目的、殊ニ其經費ヲ地租ノ附加税ニ依ツテ取立テテ其取扱ヒハ郡金庫ガ取扱フト云フヤリ方カラ見マシテモ、公法人デアアルコトハ疑ナキニ拘ラズ矢張り法人トスト云フ立法例ニナツテ居リマス、獨逸ノヲ真似タ譯デハアリマセヌデ、日本ノ立法例デ法人トストナツテ居ッテ、特ニ公法人トスト云フ例ガアリマセナダガ爲ニ、矢張り是モ趣旨ハ公法人ガアリナガラ、人格ヲ與ヘルト云フ意味ニ於テ、法人ト書イテ置ク方ガ前ノ例ニ照シテ穩當デアアル、斯ウ云フ趣意デ書キマシタノデ、斯ウ書キマシタ爲ニ公法人ニ影響ハ及ボサナカッタデアリマス、又及ボサヌト云フ考デ書キマシタノデアリマス、ソレカラ第三ノ農業方面ニ於テハ、町村農會ガ單位ニナツテ居リマシテ、此水產會法案ニ付テハ郡市水產會ガ單位ニナツテ居ルノハ、ドウ云フ譯デアアルカト云フ御尋ニ付キマシテハ、御承知ノ通り水產業ハ行政區域ノ全部ニ互ツテ、會員ガ散在シテ居ルト云フ譯デアリマセヌデ、沿

海地方デアリマスレバ大體ニ於テ海岸近クニ居ッテ、奥地ノ方ニハ先ヅ此水產會員トナルベキ資格ノ者ハ極少數デアルト云フ様ナ關係モアリマス、尤モ長野縣ノ如キ海ノ無イ國デアリマスルケレドモ、其地方長官ノ答申ニ依リマスレバ、此水產會法案ガ出來ルナラバ、直ニ長野縣水產會ヲ作りタイト云フ言明モアル位デアリマスカラ一概ニハ申セマセヌガ、大體ニ於キマシテ海ニ沿ウタ地方ニ、矢張り此水產會法案ガ成立チマシタ時ノ會員ニナルベキ者ガ多ク住ンデ居リマス、隨テ町村單位ニ致シマスト人ガ餘リニ少ナ過ギハシナイカ、事業ノ上ニ於テ會ガ活動イタシマスニモ餘リニ小サクナツテ有名無實ニナリハシナイカ、殊ニ公法人トシテ働カセマスノニハ、區劃ノ上カラ申シマシテ餘リニ狹過ギハシナイカ、主タル理由ハ主トシテ住民ガ沿海地方ニ大體ニ於テ偏ッテ居リマスカラ、町村單位ニ致シマス、餘リニ小サ過ギルト云フコトカラ、郡市單位ト云フコトニ致シマシタ、ソレニ附帶ト致シマシテ、水產組合及ビ其聯合會並ニ漁業組合ヲ、此水產會ノ中ニ網羅スルヤ否ヤト云フ御尋ニ付キマシテハ、第一ノ漁業組合ノ方ハ何レモ原則ト致シマシテ漁業權ヲ有シテ居リマスノデ、此十條ノ所謂漁業權者ト云フ立場カラ漁業組合ハ之ニ加入スルコトニナル積リデアリマス、而シテ水產組合及ビ其聯合會ニ付キマシテハ、是ハ這入ラナイ積リデアリマス、ト申シマスノハ水產組合ハ其根據ノ規定ハ漁業法ニハゴザイマスケレドモ、殆ド同業組合法ノ全文ガ準用シテアリマスヤウナ次第デ、大體ニ於テ同業組合同等ニ見ルベキモノデアリマス、即チ組合員間ノ弊害ヲ矯正シ、又組合員相互ノ利益ヲ計ルコトヲ目的トスルト云フ團體デアリマス、從ツテ此漁業者ノミデ造リマス、漁業者ノ中デモ殊ニ本當ノ目的ヲ果シタイト思ヒマスヤウナ場合ニハ、例ヘバ今日行ハレマスル「トロール」業者ノ水產組合、捕鯨船ノ水產組合ト云フヤウナ、漁業者ノ中デモ又細密ノ區別ヲシタ同業者ガ集ッテ、相互ニ利益ヲ圖レバ、目的ヲ達シ得ルノデアリマスガ、漠然イロンナ人ガ集ッテ居ッテハ實際ニ於テ其同業者間相互ノ利益ヲ圖ルト云フコトハ、多クノ場合ニ於テ出來ナイ

ト云フ有様ニナツテ居リマスノデ、水產組合ト云フモノハサウ云フ性質デアリマスカラ、從ツテ此水產會ト云フヤウナモノハ全ク別途ノ性質ノモノト認メテ居リマス、從ツテ此水產會ノ中ヘ水產組合トシテ網羅スルト云フコトハ認メナカッタデアリマス、聯合會モ同ジ趣旨デアリマス、次ニ郡市水產會ガ大體ドノ位出來ルデアラウカ、又豫算ハ補助費ハ八千五百圓ト云フコトニナツテ居ルガ、其分配方等ニ付テハドウナルカト云フ御尋ニ付キマシテハ、大體ニ於キマシテ此日本ノ海ニ沿ウタ地方、又大キナ湖水ニ沿ウタ地方等ヲ調ベマシテ、ソレニ依ツテ郡市水產會ノ是等ノ縣ニハ出來ハセヌカト云フ想定ヲ致シマシタ數ハ、約二百二十ノ積リデアリマス、郡市水產會ト致シマシテハ、併シソレハ理想通り全部出來上ツタ場合ヲ意味スルノデアリマシテ、最初ハモット少ナク豫想シテ居ルノデアリマス、先ヅ初年度トシテハ、或ハ百二十位出來ヤウカト云フ位ノ考デ居リマス、此處モ一ツ申上ゲテ置キタイコトハ此郡市水產會ヲ造リマスコトニ付テハ、條文ニモゴザイマス通り、發起者ガ其會員タルベキ資格ノアル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ經テサウシテ此認可ヲ受ケテ、初テ設立スル様ナ譯デアリマスカラ、設立ノ動機ハ決シテ強制デアリマセヌデ、飽マデ任意デアリマス、一旦成立ツタ後ノ殘リノ三分ノ一若クハ新ニ其處ヘ來ツタモノハ其強制管理ヲ受ケマスガ、設立ト云フコトニ付テハ決シテ強制デアリナイデアリマス、從ツテ全國一齊ニ造ルト云フ趣旨デアリマセヌ、又サウ云フ豫想モ有ツテ居リマセヌ、此系統的ニ造リマス以上ハ、下級水產會ガ相當ノ數ニナラナケレバ、上級水產會ノ出來ナイノハ當然デゴザイマスケレドモ、下級水產會ヲ強ヒテ一齊ニ造ラシテ、一齊ニ上級水產會ヲ造ラナケレバナラヌト云フヤウナ主義ハ取ツテ居リマセヌノデ、從ツテ出來得ベキ豫想ハ三百二十程ニ豫想シテ居リマスルガ、初年度ト致シテハ大體百二十位ノモノデ、其百二十位ト云フ根據モ決シテアチラ、コチラト此場所々々豫想シテ、語弊ハアリマスガ壓迫ヲ加ヘテマデヤルト云フ意味デゴザイマセヌデ、前以テ大體各地方ノ狀況ヲ 水產主任官會議等ニ於テ、

モウ既ニ會議モ二回以上經テ居ルヤウナ譯デアリマスカラ、ソレ等ノ場合ニ大體ノ豫想ヲ聽キマシテ、各地ヲ熱心ニ希望シテ居リマスカラ、幸ニ法律トシテ成立シマシタナラバ、サウ云フ位ガ出來ルデアリマセウ、斯ウ云フ豫想デ申上ゲタ數字デアリマス、而シテ其八千五百圓ニ付キマシテハ成程少額デアリマス、而シテ此八千五百圓ノ補助金ハ帝國水產會ト道府縣水產會ニ交付スル積リデアリマシテ、郡市水產會ニハ原則トシテ直接補助ハ致サヌ積リ居リマス、從ツテ帝國水產會ハ多分年度ノズツ押詰リマシタ頃ニハ、若シ法律ガ實施サレマシタナラバ、出來マセウト考ヘテ居リマスガ、ソレマデニ於ケル道府縣水產會ノ成立豫想ハ、大體ニ於テ十五ト見テ居リマス、此十五ノ團體ニ本年ダケ與ヘマスル補助ト致シマシテハ、法律施行後、ソレカラ手續ヲ致スコトデアリマシテ、大體ハ年度ノ終リニ近ヅイテ成立スルト存ジマスカラ、本年度トシテハ極ク少額ノ補助費ヲ見積ツタノデアリマシテ、其内譯ヲ申上ゲマスレバ、道府縣水產會ガ假ニ十五出來マスストスルト、今年ハ經常補助費トシテ各水產會毎ニ、二百圓取致ス經常費ノ補助トシテ出ス積リデアリマス、其方ノ金額ガ約三千圓ニナリマス、其外其府縣ニ依ツテ少シデモ事業ヲ始メマシタモノハ、其事業ノ善惡ヲ斟酌イタシマシテ、宜シイト認メマシタ者ニ獎勵ノ指定補助ヲ致シマス、其指定補助ニ充テマスル金額ハ一縣ニ百五十圓ヲ最下ト致シマシテ、七百五十圓位ヲ最高ト致シタ範圍デ、一口ガ其範圍ニ於キマシテ先ヅ來年度ニ於テハ三千五百圓バカリ其方ニ充テ、殘リマスル二千圓ヲ帝國水產會ノ事務費ノ補助トシテ支出イタシマスレバ、先ヅ十年度ノ所ハ大體ソレニ於テ宜シクハナイカト、斯ウ云フ計算ヲ立テタノデゴザイマス、而シテ十一年度以降ニ付テハドウスルカト云フ問題ニナリマスノデアリマスガ是ハ一ツハ水產會ガ豫想通り著々設立サレルヤ否ヤニ依ツテ多少違ヒマスノデアリマスガ、當局ノ豫想ト致シマシテハ第二年度ノ終リ迄ニハ、大體コチヲ豫想トシマシタ數位ハ出來ル積リデアリマス、從ツテ先ヅ其年度ヲ以テ給シマス額ヲ要求スベキ時期ト見テ宜シイト

見テ居リマスノデ、其時ハ補助費ダケ年額五萬圓ヲ要求スル豫想ニナツテ居リマス、其五萬圓ヲ今申上ゲマシタ通りニ帝國水產會ト道府縣水產會ニ對シテ、一部分ハ經常補助一部分ハ指定補助ト云フ事ニ致シテ補助イタシタイ、是トテモ御話ノ如ク甚ダ不満足ナ補助費デアリマスレバ、一應當局ト致シマシテモ大藏省當局ト種々交渉イタシタノデアリマスガ、財政上ノ關係カラシテ差當リ平年額ハ五萬圓ト云フ事ニ一應イタシマシタ次第デ、當局ト致シマシテハ決シテ是ヲ満足イタシテ居ル次第デハナイノデアリマス、サウ致シマシテ農會等ニ於キマシテモ、相當地方費ノ補助モアリマスシ、又地方長官アタリノ意見ヲ機會アル毎ニ聽キマシテモ、斯ウ云フモノガ出來レバ、又相當ノ補助ハ地方ニ於テモ持タナケレバナルマイ、又持タウト云フヤウナ話モアリマスカラ、相當ノ地方費補助モアル積リデアリマス、ソレ等ヲ綜合シテ參リマスレバ、先ヅ最初ノ出發ノ時代ト致シマシテハ一通リノ働キガ出來ハスマイカト、斯ウ考ヘテ居ル次第デアリマス、第五ノ法案第二十七條ニ於キマシテ、終リノ方ニ「水產會ニ準スル法人」ンレハ宜シイトシテ、其ノ他ノ團體ヲ會員ト爲スコトヲ得」ト云フ團體ヲ入レルト云フコトニ付テハ、如何ナモノデアアルカト云フ御尋ノヤウニ心得マスガ、實ハ先日モ申上ゲマス通り、海ハ全部共通イタシテ居リマス、現ニ朝鮮ト内地トノ關係デ見ルト對馬方面デ鯖ヲ捕リマスニ「ダイナマイト」ヲ入レテ法律規則ヲ犯シテ捕ル漁業ヲヤツテ居リマス、是ハ内地デ逐拂ヒマス、最近ニハ其取締リヲ幸ヒニ内地ノ方デ厲行致シマス、此春ハ朝鮮ヲ非常ニ荒シテ居ルヤウナ關係デアリマス、一例ヲ舉ゲテモサウ云フ密接ナ關係ガアリマス、又臺灣トノ關係デ現ニ問題ニナツテ居ルノガ、支那海漁業ニ出漁スベキ「トロール」船ニ付テ、内地ノ方デハ七十隻マデノ制限デアリマス、臺灣ノ方ハ今ノ處、三四隻許シテ居リマス、是等ガ將來ニ於キマシテハ漁場ガ多分同一ニナリハシナイカ、雙方ガ進ムニ連レテ入り交ツテ來ルコトニナリマセウト思ヒマス、夫等ノ場合ニモ雙方餘程能ク諒解シマセスト、今日ノ内地ノ方域ト臺灣ノ方域ト違ッテ居

リマス以上ハ、餘程此手段ニ依ツテ連絡ヲ取ツテ行クト云フコトガ、全部水產ニ關スル方域ガ統一サレレバ宜シイガ、ソレ迄ハ斯ウ云フ手段ヲ採ツテ行クノガ必要デハナイカ、現ニ水產主任官ノ會議ヲ毎年開キマス際ニ、農商務大臣トシテ命令的ニ招集致シマスノハ道府縣ノ水產主任官デアリマスガ、一緒ニ案内ヲ致シマシテ、矢張り其會議ニ他ノ道府縣水產ノ技師ト一緒ニ入レテ會議ニ參加サス方ガ結果ガ頗ル宜シイト心得テ居リマス、而シテ斯ウ云フ自治的團體ガ出來マスルニ付キマシテハ、矢張り其趣旨ヲ追フコトガ必要ト認メテ此條文ヲ置キマシタガ、ソレニ付キマシテ朝鮮トカ臺灣トカノ方面デスト、法人ト云フコトニ致シマシテ、其方面ノ法制ニ依ツテ法人トナツタモノヲ入レルコトハ出來マスガ、茲ニ或ハ入レルコトニナルカナラヌカ分リマセヌ、サウ云フ法人トナル可キ法制ヲ有シテ居ラヌ地方ノモノデ、矢張りサウ云フ處ハ法律上法人トハ言ヘナイガ、實質ニ於テ同ジヤウナモノガ出來マス時ニ、入レルコトガ必要デアアルト云フ場合ガ出來マセウト思ヒマス

〔速記中止〕

○政府委員(村上隆吉君) 尙「團體」ト云フ字ガアルトマスルト、第二條ノ「法人トス」ト云フコトニ抵觸シナイカト云フ御尋ニ付キマシテハ、此ノ法人ト法人同様ノ團體トハ、英吉利ノ法制等ニ付テモ御承知デアリマセウガ、曖昧ナコトガ屢々アルノデアリマシテ、向フデハコチヲ言フ程、嚴重ニ法人ト云フ觀念ハ無クテモコチヲ言フ法人ト云フコトニ取扱ツテ居ルヤウニモ承知シテ居リマスガ、殊ニ此水產會法案デ作リマスル、水產會ノ此所謂團體ニ加入スルノハ、帝國水產會デアリマシテ、帝國水產會ハ府縣水產會ト云フヤウナ個人的デ無イ團體ト云フ會ニナルノデアリマスカラ、大體ニ於テソレニ準スベキ團體ト認メ得ベキモノデアレバ、極ク法律的ノ意味ニ於テ法人ト嚴格ニ言ヘナイモノデモ、同様なモノナラバ之ヲ入レルト云フコトニ致シテモ、法人ノ性質ハ別ニ害スマイ、詰リ第二條「法人トス」ト云フハ御覽ノ通り帝國水產會ガ法人ナノデアリマシテ、其法人ヲ組織スル分子ノ中ニ、極ク嚴格ニ言ツテ法人

ト言ヘナイ團體ガ這入ッテモ、其纏マツタモノヲ其帝國水產會ヲ法人トスト云フノニ、餘リ支障アリマス

マイト云フヤウナ考デ致シタノデアリマス

○男爵本田親濟君 唯今ノ第二條ノ法人ト云フコトニ付テノ御説明デ能ク了解シマシタガ、法律上ノ見地カラ其公法人トシテモ法人トシテモ、別ニ是マデノ日本ノ農會ナリ其他ノ總テ斯ウ云フ法案ニ對スル例ガ無イカラシテ、茲ヲ一先ツ法人トシテ差支ナイ積リデ斯様ニ與ヘタ、斯ウ云フ御話デアッタヤウニ思ヒマス、其他外國ノ例モ御引キデゴザイマスガ、差當ッテ此法人ニ付テノ例ニナルノデアッテ、單ニ例ヲ御引キニナツタゲト私ハ承知シテ居ルノデスガ、公法人トスルト云フノト、法人トスルト云フノト、別ニ是マデ日本ノ立法上、サウ云フコトノ例ガ無イカラシテ、總テ法人ト云フコトニシテアルカラ、此處モ法人トスル、斯ウ云フ御話ノヤウニ聞イタデスガ、左様デゴザイマスカ、跡ハマダゴザイマスケレドモソレダケ一ツ伺ヒマス

○政府委員(村上隆吉君) 御話ノ通りデゴザイマス詰リ人格ヲ與ヘルト云フ意味デ法人ト云フモノヲ規定シテ、其以上ハ法人ノ種類マデヲ、公法人トカ私法人トカト書キ分ケル其法例ガ今マデアリマセヌノデ、ソレハ學說、慣例其他解釋ニ讓ッテアリマスノデ、是モソレニ倣ヒマシタノデアリマス

○男爵本田親濟君 飛々ニ伺フヤウデアリマスガ、水產組合トシテ水產會ヲ含マスト云フ御説デアリマスガ、是マデ郡村ナリ其他ニ設ケラレテアッタ水產組合ノ外ニ更ニ水產會ト云フモノヲ設ケラレルトシマスルト、此第二十六條ニアリマス此經費ノ分賦及過意金ヲ徵收スルト云フ上ニ於テ二重ノ負擔ニナリハシナイカト云フ悞レガアルヤウニ思ハレマス、ナゼカト云ヒマスルト水產組合ニハソレ一矢張り此經費ナリ過意金ヲ徵收スルトガ設ケラレテアルガ、若クハ單ニ經費ダケヲ分賦スルト云フコトガ設ケラレテアルカ其所ハ知リマセヌガ、一方水產組合ニ於テ斯様ナ負擔ヲシテ更ニ水產會ノ方デモ何ガシカノ負擔ヲシナケレバナラスト云フコトニナリハシナイカト思フ、サウシマスルト二重ニ負擔スルヤウニ思

ハレマスガ、是ハ甚ダ面白クナイ結果ヲ生ズルノデアッテ、斯様ニ兩立スルヤウナコトデアッタナラバ負擔ヲ重ネナイト云フ方法ガソコニ有ハシナイカ、ソレガ御所見ヲ伺ヒタイ

○政府委員(田中隆三君) 唯今ノ御尋ニ付キマシテ先ヅ水產組合デハ此第二十六條ト同様ノ規定ハゴザイマセスト云フコトヲ先以テ申上タイト存ジマス、而シテ水產組合モ一ノ組合デアリマスカラ從ッテ二十六條ノヤウナ規定ハアリマセヌケレドモ、會費ハ矢張り取りマス、從ッテ同ジヤウニ二重負擔ト云フ悞モ或ハ生ジ得ルト云フ事ハアルノデアリマス、併ナガラ水產組合 先ホド申上ゲマシタヤウニ當業者相互ノ利益ヲ計ル、唯今例ヘバ一番好イ例デ申上ゲマスト今ノ「トロール」船ヲヤル多數ガ一緒ニ集ッテ御互ニ弊害ヲ改良シ、發達ヲ圖リ水產組合相互ノ利益ヲ計ルト云フコトヲ目的トスル水產組合デアリマスカラ全ク私益ヲ目的ト致シマスノデ水產會ト云フ工業上ノ見地カラ公法人トシテ働クモノト違ヒマスモノデ、是ハ極端ニ過ギル例カ存ジマセヌガ、會社ト市町村ト違フト云フコトハ性質ニ於テハ云ヘヤウカト思ヒマス、但シ唯今ノ水產組合ト云フモノモアリマス、實質ヲ一々解剖シテ見マセバ今度出來マス水產會ニ似寄ッタモノデアリタイト云フヤウナ意味デ、有ユル種類ノ會員ヲ集メテ造ッタヤウナモノガ今日アリマス、水產組合ノ中ニ一割弱ホドアリマス、ソレヲ拾テ置キマスレバ御話ノ通り二重ニナリマス、從ッテ之ガ經過規定ニ依テ整理イタス積リデ、從ッテ是等ノコトヲヤリタイト云フナラバ全部ニ水產組合ト云フ名義デサウ云フコトヲセズ、此水產會法ニ依ル水產會ニ移スヤウニシヤウ今マデトモサウ云フ事ヲヤッテ居ルモノハ法律上、十分ナ自信ガアッタヤウニ云フノデナク、斯ウ云フ水產會ノヤウナコトヲヤリタイガドウモ手段ガ無イカラト云フ一種ノ窮策的ノ手段トシテヤッテ居ッタ次第デアリマスカラ、幸ヒ此法律ガ成立イタシマシテ今度公然公認サレタ水產會ニ引移スト云フコトニナレバ、ソレダケデモ移ラウト思ヒマスカラ、此補償金ノ關係モアリマスカラ此方ニ移ス方ガ實質の有利デモアリマスガ、又移ルコト

ニ異存ハナイト思ヒマス、而シテ尙ホ地方長官アタリニ監督サセ、鑑別サセ、尙ホ頑強ニ移ラヌモノガアリト致シマスレバ水產組合ノ準用サレテ居ル同業組合等ニ移ス様ニヤルカ、極端ナ場合ニハ解散ノ命令マデ出サセルト承知イタシテ居リマスカラ、ソレ等ノ手段ニ依ッテ全部一齊ニ參ランデモ着々整理イタシテ仕舞フ積リデ、サウ致シマスレバ同業組合の水產組合ガ残りマスガ、ソレハ今申上ゲタ水產組合トハ性質モ目的モ全然違ヒマスカラ、二重ニハナラヌト承知イタシマス、二重ニナル虞レアル分ニ付テハ全國ニ於テ約一割弱デアリマスガ、兎ニ角大體ニ於テ重複スル様ナ形ノモノハアリマスガ、今申上ゲタ趣旨デ整理イタス規定ニナッテ居リマス、經過規定ガ此附則ニ附ケテアリマスノハソレ等ヲ豫想イタシタ次第デアリマス

○男爵本田親濟君 尙ホマダゴザイマスケレドモ、私バカリ獨デ質問シテ居ルノモ甚ダ何デアリマスシ、尙ホ考ヘル所モアリマスカラ、一先ヅ是デ質問ハ止メマシテ、追ッテ又……

○西久保弘道君 私モ二三伺ヒタウゴザイマス、錯雜スルトイケマセヌカラ一廉ヅ、伺ヒタウゴザイマス、此第四條ニ政府ハ其定ムル條件ヲ具備スル水產會ニ補助スルト云フコトガゴザイマスガ、之ニ付テ御尋シタイノハ實ハ是マデアリマス農會ナドハ矢張り同様ノ規定ニナッテ居リマスガ、此農會ノ事ヲ御尋スルノハ、チヨット見當違ヒカ知レマセヌガ、農商務省ニ御出デダカラ御承知ダラウト思ヒマス、隨分此地方ニ致シテ見マスルト、何モ仕事ヲシナイデ、ホンノ有名無實ノ農會ガアルガ、ソレモ矢張り一視同仁ニ農商務省ハ補助ヲヤッテ寧ロ經費ニ對スル仕事ト云フヨリ經費ヲ幾ラ使ッテ居ルカラソレニ幾ラ補助シヤウト云フ大體今迄ノヤリ方デアリマス、隨分私ナドハ面白クナイト思ッテ居リマシタガ、今度此水產會法デ補助ヲ水產會ニ補助サレルニハ、ソレ等ノ點ハナク、今マデ農會ナドデヤッテ居ルコトハ面白クナイ、ソレデ其點ニ付テハ取締ト云フヤウナコトハ十分御研究ニナッテ居ルモノデゴザイマスカ、ソレヲ伺ヒマス

○政府委員(田中隆三君) 唯今ノ御尋ニ付キマシテ

ハ兎角會ガ出來サヘスレバ内容ニ拘ラズ其名前ニ應
ジテ直チニ補助費ヲ出スト云フヤウナ弊ガナイデハ
ナイカト云フ御尋ニ付キマシテハ相當注意ヲ致シマ
シタ積リデアリマス、其注意ヲ致シマシタ點ハ此補
助ヲヤルコトニ付キマシテ此經常補助ノ指定補助ニ

分ケマシテ經常補助ト云フ分ガ兎角御話ノ通り形式
ニ流レ易クテ、苟クモ會ト云フ名前ガアリサヘスレ
バ、ソレダケノ金額ハ皆ヤルト云フコトニ、落チ易イ
コトノヤウニ承知イタシテ居リマス、其事ニ付キマ
シテモ、相當考ヘマシタ積リデアリマスガ、經常補助

ヲ全部止メルト云フコトハ、斯ウ云フ新シイ會ノ出來
マスル出發ノ際トシテハ、矢張りドウモ行ハレナイ、
併シサウ云フ方ニ流レ易イノデアリマスルカラ、經
常補助ハ割合ニ少ナク致サウト云フ積リデ略々補助

計畫ヲ立テ、居リマス、ノミナラズ、補助ヨリハ指定
事業補助：詰リ會ガヤラウト云フ其希望ノ事項ヲ
調査イタシマシテ、尤トモ認メタモノニ補助ヲシテ
ヤル、其指定補助ノ方ニ取ツテ置クト云フ事ノ趣旨デ

ヤリタイト云フノデ、實ハ補助計畫ヲ一應内輪デ立
テ、居リマス、初年度ニ於キマシテハ、先程申上ゲ
マシタ此府縣水產會ノ經常補助ノ三千圓デアリマシ
テ、指定補助ガ千五百圓アリマスカラ、今申上ゲタ趣

旨ヲドウ云フ様ニ御聽取リ下スツカ知リマセヌケ
レドモ、ソレハ先程申上ゲマシタ通り、十年度ハ年
度ノ極ク終ニ近ヅクニ從ツテ會ガ出來ルノデ、事業ヲ
スルモノハ頗ル少イ、先ヅ成立ヲ補助スル爲ニ經常

補助ヲヤルト云フ事カラ、指定補助ハ、私ガ先程申上
ゲマシタヨリハ少クナツテ居リマス、併シ尙ホ經常補
助ハ千圓ト致シマシテ、指定補助ハ千五百圓ト致シ
テ居リマス、併シ平年額ニナリマシテカラハ、私共ノ

作ツテ居リマスル豫定計畫ハ經常補助ノ方ハ當分水
產會全體ニ對シテハ一万六千圓ヲ豫定シマシテ、指定
補助ノ方トシテハ二万四千圓ヲ豫定シテ居リマスル

是等モ最初ノ内ハ經常補助ハ矢張り必要デアルト考
ヘナガラモ經常補助ノ方ヲズツ減ジマシテ指定補
助ノ方ヲ最初カラ大キク致シタイト云フ積リデアリ
マシタ、デアルカラシテ其内カラ經常補助ハ漸次ニ

減額シマシテ指定補助ノ方ニ重キヲ置キマシテ、サ
ウシテ其爲ス事業ノ實質ニ依ツテ補助ヲ致シタイ、名

前サヘアレバ一應ノ補助費ハ必ス出スト云フト云フ
ヤウニヤルコトハ致シタクナイト云フ考デ、一應補
助計畫ヲ立テ、居リマス、次第デアリマス

○西久保弘道君 ソレカラ此第十條ノ末ノ方ニアリ
マスル「道府縣水產會ニ在リテハ其他區内ノ郡市水
產會、帝國水產會ニ在リテハ道府縣水產會ヲ以テ之

ヲ組織ス」是ニハ第九條ノ但書文、是モ無論這入ッ
テ居ルノデアリマス、地區モ郡市ノ地域ニ依ラヌモ
ノデモ無論ココニ這入ッテ居ル譯デセウ

○政府委員(村上隆吉君) 左様デゴザイマス
○西久保弘道君 ソレカラ此第十三條ニ特別ノ事由
ト云フノハドウ云フコトヲ申シマスノデアリマセウ

カ、第八條ノ特別ノ事情ト云フコトハ想像ガ付キマ
スガ、十三條ノ特別ノ自由ト云フノハ、チヨット一例
ヲ御舉ゲ下サツタラドウ云フコトヲ

○政府委員(村上隆吉君) 此條文ヲ置キマシタ趣旨
ハ本來公法人ト致スノデアリマスルカラ、所謂強制
加入ノ規定ヲ原則ニ貫キマシテ、斯ウ云フ但書ヲ

置カンデモ宜シクハナイカト云フコトモ始メハ論ジ
タノデアリマス、殊ニ商業會議所等ニハ斯ウ云フ
規定ハ無カッタ記憶イタシテ居ル、而モ之ヲ入レマ

シタノハ將來豫想シマセナンダコトニ依ツテ、強ヒテ
加入サセルト云フコトガ全體ニ於テ面白クナイト云
フコトガアルカモ知レヌト云フコトヲ考ヘマシタノ

デアリマスガ、差當リ豫想シテ居ル事項モゴザイマ
ス、ソレハ一ツハ經費増加ニ依リマシテ、其事情ニ依
ツテ：個人個人ノ事情ニ依リマシテ經費ノ負擔ニ
堪ヘナイト云フコトモアリ得ルト思ヒマス、サウ云
フコトニ決マツテ居リマスルモノヲ強ヒテ入レルノ

シタノデアリマス、主トシテ斯ウ云フ除外例ノ道ヲ
開イテ置ク方ガ、或ル場合ニ必要ガアルカモ知レヌ

ト云フ趣旨デ置キマシタ、唯今豫想シマシタノハ、幾
多ノ水產會ニ加入スル爲ニ、實際ソレ程ノ效果ガナ
クシテ、個人トシテ餘程遺憾ダト云フヤウナコトガ

アルカモ知レマセヌ、サウ云フ場合ニハ審査イタシ
テ免除スルト云フ場合ヲ規定致シタノデアリマス
○西久保弘道君 幾多ノ水產會ニ這入ラナケレバナ

ラスト云フノハ、チヨット私聽取レマセヌデシタガ、
ドウ云フコトデスカ

○政府委員(村上隆吉君) 一人デ以テ各地區ノ方々
ニ漁業權ヲ持ツテ居ルヤウナ者ハ、其地區毎ニ漁業權

者トシテ這入ラナケレバナラヌ、又捕鯨ノ方ニ於キ
マシテノ根據地ヲ持ツテ居ル會社デアリマスルカラ、
各方面ニアリマスル根據地毎ニ這入ラナケレバナラ

スト云フ場合ガアルノデアリマス、此場合ニハ審査
イタシテ免除シ得ル場合ガアルト豫想イタシマシタ
○西久保弘道君 ソレカラ此二十一條ノ會長副會長

トシテアリマスルガ、是ハ原則トシテハ選ブト云フ
コトニナツテ居リマスガ、又特別ノ事由アル場合ニハ
會員或ハ議員ニ非ザル者デモ之ヲ選任スルト云フコ

トデアリマスガ、是ガ農會ナドデハ多ク會長ハ知事、
副會長ハ內務部長ト云フヤウナコトガアツテ、何ダカ
面白クナイヤウナ者モ致シマシテ特ニ會ヲ設ケル效

能モ無イヤウニ思ハレルコトモアリマスガ、議員ニ
非ザル者ヨリ選ブト云フヤウナコトハ矢張りサウ云
フヤウナコトヲ見込デ居ラレル譯ナノデアリマス
カ

シタノデアリマス、主トシテ斯ウ云フ除外例ノ道ヲ

開イテ置ク方ガ、或ル場合ニ必要ガアルカモ知レヌ

ト云フ趣旨デ置キマシタ、唯今豫想シマシタノハ、幾

多ノ水產會ニ加入スル爲ニ、實際ソレ程ノ效果ガナ

クシテ、個人トシテ餘程遺憾ダト云フヤウナコトガ

アルカモ知レマセヌ、サウ云フ場合ニハ審査イタシ

テ免除スルト云フ場合ヲ規定致シタノデアリマス

○西久保弘道君 幾多ノ水產會ニ這入ラナケレバナ

ラスト云フノハ、チヨット私聽取レマセヌデシタガ、

ドウ云フコトデスカ

何デモ彼デモ其中カラ選バナケレバナラスト云フコトデハ折角ノ目的ヲ達シナイコトモアリハシナイカ、サウ云フ場合ニハ斯ウ云フ但書ヲ設ケテ置ク必要ガアルカラト云フ趣旨デ設ケマシタノデ、決シテ知事、内務部長ヲスル趣旨デ設ケタノデハアリマセヌ、但シ此適用ノ結果特別ノ事情ノアリマセ場合ニ、殊ニ其土地ノ事情トシマシテソレデナケレバ治マラスト云フヤウナコトノ場合ニ今御話ニナリマスル知事、内務部長ガナルト云フコトガナイトハ申上ゲラレマセヌ、ケレドモ決シテソレヲ豫期シテ作ツタ譯デハアリマセヌノデ、無論廣ク水産會ヲ指導スル人ガ特ニ缺クル場合ノ用意トシテ開イテ置ク必要ガアル、斯ウ云フ考デゴザイマス

○西久保弘道君 ソレデハ此十五條ノ第二項ノ如キ下ノ方ニ「其ノ員數ハ議員定數ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス」トアリマス、此議員定數ト云フノハ特別議員ノコトデアリマスカ

○政府委員(村上隆吉君) 是ハ特別議員ハ其議員ノ五分ノ一マデヲ……四十人ノ議員ガゴザイマスレバ其中ノ八人マデノ……以下ノ範圍内ニ於テ特別委員ヲ造ル、斯ウ云フ積リデ出來タノデアリマス

○西久保弘道君 ソレハ五分ノ一ハ、特別議員ハ全體ノ議員ノ五分ノ一ヲ特別議員トシテ置クコトガ出來ルノデスカ、第一項デ

○政府委員(村上隆吉君) 第一項ノ方ハ其會自身ガ選ビマシタ特別議員ガ五分ノ一、ソレカラ第二ハ行政官廳ガ特ニ指名イタシマシタ議員ガ尙ホ五分ノ一、合セテ五分ノ二マデハナリ得ル勘定デアリマス、丁度商業會議所ニ於テ同ジ事項ガアリマス

○西久保弘道君 此議員ト云フノハ一般ノ議員デスナ……次ハチヨット文字ナシデアリマスガ、九條ニ「文字ヲ用ケルヘシ」トアリマスガ、外ノ法令ノ用語ト大變違フヤウデアリマスガ、是ハ何カ 外ニハ「文字ヲ用ユヘシ」ト書イテアリマスガ、總テノ法律ガ是ハ何カ斯ウ云フ風ニ將來ハ爲サル譯ナシデスカ

○政府委員(村上隆吉君) 是ハ實ハ法制局ガ斯ウ云フ風ニ統一スルノダト云フコトニ最近決マリマシタノデアリマス、ソレデ總テ彼方ニ委セマシタ

○西久保弘道君 差當リ御尋ネシタイノハソレダケデアリマス、實ハモウ一ツ私ハ御尋ネシタイコトガアリマスガ、ソレハ外ノ御方ノ何レ御質問ガアラウト思フノデスカ、強制徵收ノコトデアリマスガ、是ハ詰リ他ノ外ノコトニモ關係イタシマスカラ、大臣カ又ハ大臣ガ御差支ガアレバ、次官デモ宜シイ、又本日デナケレバ、此次デモ宜シイノデスカ、此強制徵收ト云フコトニ付テ、又他ノコトニ付テモ一ツ承ツテ、此間本會デモ質問モアリマシタガ、少シ確メテ置キタイト思ヒマスノデスカ、是ハ大臣カ又ハ次官ノ都合ノ好イ時ニ私ハ譲リタイト思フ、ドウゾ委員長ニ於テ

○荒川義太郎君 私ハ少シ伺ッテ置キタイ、私ノハ矢張りチヨット伺ッテ見タイノハ強制徵收ノコトヲ伺ッテ見タイノデアリマス、併シ今西久保君カラモ御話ガアリマシタカラ、或ハ大臣、次官ノ御出席ヲ要スルカモ知レマセヌガ、私ハ今政府委員ノ御説明ヲ先キヘチヨット參考ノ爲ニ聽イテ置キタイト思フ、ソレハ此間カラ御説明ニ農會ハ私法人デアアル、ソレカラ商業會議所、今度今制定セラレムトスル所ノ水産會法ノ如キハ之ヲ詰リ公法人デアアルト云フ御話ニナッテ居リマシタガ、第一ニ此條項ヲ私ハ實ハ甚ダ不調ナリマデアリマスガ、農會法ト云フ方ノ法案ハ持ッテ居リマセヌガ、又調ベテモ見マセヌガ、農會法ト今度ノ水産會法トノ差ガドウ云フ所ニアリマスカ、公法人ト見ル、是ハ私法人ト見ルト云フ點ヲ一ツ御示シテ願ヒタイ、第一ニ……

○政府委員(村上隆吉君) 唯今ノ御尋ネニ付キマシテ前以テ申上ゲタイト思ヒマスルコトハ、私ノ申上ゲヤウガ惡カッタカモ存ジマセヌガ、先日本會議デ申上ゲマシタノハ大審院ノ判例ガドウナッテ居ルカト云フ阪本サンノ御尋ネノヤウニ承知イタシマシテ、彼所デ大審院ノ判例ヲ申上ゲタ積リデアッタノデゴザイマス、又先日ノ本案ノ説明ニ付キマシテモ若シ私ガ農會ハ私法人ナリト申上ゲテ居リマシタナラバソレハ私ノ間違ヒデゴザイマス、農會ハ私法人ナリト云フコトハ今日ノ大審院判例ガサウナッテ居ルノデゴザイマシテ、之ヲ農商務省當局トシテ解釋イタ

シマス時ニ付キマシテハ私法人ナリト決シテ極メテ居ル譯デハナイノデアリマス、或ハ私ト致シマシテハソコマデハ申上ゲ過ギルカモ知レマセヌガ、此農會ノ事實ノミニ付キマシテハ、私ガ承知シテ居リマスノハ、私ガ先年參事官ヲ勤メテ居リマス頃マデハ農務當局ノ主張ハ農會ハ私法人ト見ルベキデアアルト云フヤウナ説モ元々ハゴザイマシタケレドモ、今日ノ農務當局ハ矢張り農會ハ公法人ナリト云フコトヲ言ッテ居ル、又ソレデアアルト農務當局ト致シテハ主張イタシテ居ルノデアリマス、特ニ省議デ決定イタシタトカ、閣議デ決定ヲ致シタト云フ所マデ進ンデ居ナイ、行政官廳ノ見解ハ……先日私ノ申上ゲタノハ大審院ガ之ヲ私法人ト申シテ居ルト云フコトヲ實ハ申上ゲタ積リデアアルノデアリマス、ソレカラ尙ホ現行ノ農會法、及農會令ノ規定ト今度ノ水産會法案ト法人ノ性質ニ付テ、ドウ云フ風ニ違ッテ居ルノカト云フ御尋ネニ付キマシテハ色々ノ點カラ申上ゲル事モ出來ヤウト思ヒマスノデスカ、何分ニモ一般論トシマテ現在ノ農會法ハ明治四十三年ニ衆議院提出デ僅ニ數ケ條ノ條文ガ成立イタシマシタノデ、現ニ生キテ居リマスル條文ハ施行期日ヲ定メマシタ附則ノ條文ヲ除キマスル條文ハ僅カニ五箇條、其中ニモ補助ニ關スル規定ガ二ケ條、又其他ノ一ケ條ハ「農會ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム」農會ノ種類ハ市町村農會、郡農會、道府縣農會及帝國農會トス」ト云フノデアリマス、農會ノ性質ノ多少ナリトモ付度シ得マスル條文ハ一條ノ「農會ハ農事ノ改良發達ヲ計ル爲ニ設立スルモノトス」ト云フ條文ガアルノデアリマス、後ハ一切勅令ニ示シテ居ルノデアリマス、殊ニ「農會ハ法人トス」ト云フヤウナ條文ハ即チ勅令ノ第二條ニ規定シテアリマスヤウナ譯デ、法律上之ヲ公法人ナリト主張スルニ付テハ條文ノ立テ方モ餘リ法律ダケデ申スト云フト弱イ感ジガ致シマス、サウ云フ設立上ノ條文ノ中ニ強制徵收ノコトガ急ニ飛込ムト云フコトモ可笑シイ體裁ニモナラヌカト云フ、サウ云フ次第モアリマシテ此立法ノ大體ニ於キマシテモ既ニサウ云フ風ニ其一口ニ申セバ先ヅ弱身ガアルカト思ヒマス、デ此各條ニ付キマシテ申上ゲマスルサウ飛離

レタコトハ元々同ジヤウナコトデアリマスカラアラ
ウ筈ハアリマセヌデアリマスガ、多少ズツ違ッテ居
リマス、殊ニ一口ニ申上ゲテ一番著シイ例トシテ考
ヘマスノハ農會ハ御承知ノ通り市町村農會ヲ單位ノ
農會ト致シテ會員組織ニナツテ居リマス、會員ノ總會
ヲ以テ會議ノ體ヲ組織シテ居ル形ニナツテ居リマス
ガ、水産會ノ法案ノ方ハ十四條ニ於キマシテ單位タ
ル郡市水産會ニ總會ヲ基礎ト致シテ居リマス、サ
ウシテ總會ハ會員カラ選バレマシタ議員ヲ以テ之
ヲ組織スル、即チ代議制ヲ採ッテ居リマスヤウナコト
モ、農會ノ唯今ノ立法トハ違ッテ居リマス、ソレカラ
設立ニ付キマシテ「水産會ハ設立ノ認可ヲ受ケタル
時成立ス」ト云フヤウナ立法例ノゴザイマスノモ多
少違ッテ居リマス、又第十六條ノ第一項ノ收支豫算及
ビ第二項ノ方ニ於キマシテ「經費ノ分賦收入方法」ノ
如キ役人及特別議員ノ選任及解任ニ至リマスマデノ
コトハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其效力ヲ
生ゼズト云フコトヲ規定シテ居リマスノモ、亦今日
ノ農會ノ方トハ違ッテ居ルヤウニ承知シテ居リマス、
又是ハ例トシテ申上ゲテハ或ハ當ラ缺カモ知レマ
セヌガ、二十四條ト二十五條委員會ノ制度ヲ設ケマ
シタナドモ、英吉利邊リニアリマス執行委員會ト、又
モト市町村ニアリマシタ執行委員會トシテノ、參事
會ト云フヤウナ種類モ參酌イタシマシテ、委員會ヲ
造リマシタノモ農會ニハナイ事デアリマス、又二十
八條ニ於キマシテ「收支豫算又ハ經費ノ分賦及收入
ノ方法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ
處分ヲ爲スコトヲ得」ト云フコトモ確カ農會ニハ規
定シテナカッタト記憶シテ居リマス、サウ云フ風ニ農
會法ト違ッテ居リマス、曩ニ申上ゲマシタ通り農會ヲ
公法人ト云フコトヲ申上ゲマシタノハ大審院ノ判
例ガサウナツテ居ルト云フコトヲ申上ゲテ趣旨デア
リマシタガ、私ノ言葉ガ足りナカッタカモ知レマセ
ス

決例ノ御話デアリマシタガ、商業會議所ノ費用デ
アリマス、アレハ何デスカ商業會議所ハ強制徵收
ノコトガ設ケラレナイ前ニハドウナツテ居リマス
カ

トハ出來ナイデ、行政處分ニ依ル強制法ヲ設ケテ置
カナケレバ結局強制ノ方法ガナイ、此大審院ノ主張
シテ居リマスコトハ學說モ皆認メテ居ルト承知シテ
居リマス、又水産當局ト致シテ私共モソレハ尤モノ
事ト承知イタシテ居リマス、此事實ニ此判例ガ働キ
ヲ致シテ居リマスシ、サウ云フ判例ガ出テ居リマス
ノデ殆ド動カス可ラザル判例デナイカト思ヒマス、
實際ニ於テヤリヤウモナイコトニ陷ルダラウト思ッ
テ居リマス

○荒川義太郎君 ソレカラモウ一ツ伺ッテ置キマス
ガ、是ハ成ホド判決例ノ御話デシタラウガ、公法人
ハ民事手續ニ依テ訴フルコトハ出來ナイト云フ判

○政府委員(村上隆吉君) 商業會議所法ハ私ノ承知
シテ居リマス所デハ立法ノ初メカラ所謂強制徵收ノ
規定ガアリマシタノヲ削除イタシマシテ、ソレガ其
後ニ至リマシテ其所謂強制徵收ニ關スル規定ガ確カ
衆議院提出ノ法律案デアッタカト記憶シテ居リマス
ガ、ソレニ依テ削除セラレマシタモノモ大正五年ニ
至リマシテソレモ復活シマシタ、其間ニ大審院ノ大
正三年十一月九日ニ民事部ノ判決ヲ出シマシタ判例
ノ示ス所ニ依リマス、商業會議所ハ公法人デアッテ
其經費ノ負擔ハ公法的經費關係ニ基クコトハ明カデ
アル、隨テ民事訴訟ニ依テ是ガ徵收ヲ強制スルコト
ヲ致サシメザルト云フ斯ウ解釋スルヲ相當トス、斯
ウ云フ判例ニナツテ居リマス、隨テ其條文ガ確定シマ
セヌ間ハ民事訴訟法ニモ行ケズ、又所謂強制徵收法
ニモ依ルコトガ出來ズ、徵收シ得ナイ狀態デアッタト
承知イタシテ居リマス

○荒川義太郎君 其コトハソレダケニシテ置キマシ
テ、此外國ノ例ヲチヨット伺ッテ置キタイノデスガ、無
論外國ニ斯ウ云フヤウナ水産會トカ何トカ云フ、是
ノ今茲ニ御拵ヘナツテ居ル水産會法ト云フヤウナモ
ノトハ違ッテ居リマスガ、併ナガラ凡ソ斯ウ云フヤウ
ナ會法ナドヲ設ケテ居ル、外國ナドノ會ハ、此費用ノ
補助ハドウナツテ居リマスカ

○荒川義太郎君 其處ハ成ホドサウデアリマセウガ
能ク考ヘテ見ナケレバ意見モ十分ニ出マセヌガ、矢
張り何カ政府ニ於テハ今ノ農會ト此水産會法ノ私法
人ダトカ公法人ダトカ云フコトニ付テハ、直チニ大
審院ノ何ニ依ルト云フ見解デナイト云フ御説明モア
リマシタガ、此點ニ付テ今ノ強制徵收ノ點ニ付テ、政
府ニ於テハ先ヅ此大審院ノ例ト同ジヤウニ行政官
シテハ御考ヘニナツテ居ルノデアリマスカ、其處ヲ御
何ヒシマス

○政府委員(村上隆吉君) 此公法人ト私法人ノ區別
ハ御承知ノ通り異論モアリマスガ、大體ニ於テ判例
モ學說モ法文ノ全體ノ趣旨カラ見テ其結果トシテ公
法人ト云フコトニナリマシタ以上ハ、是ハ矢張り大
審院ノ判例ガ是ハ水産當局トシテ考ヘマシテモ誠ニ
尤モト存ジマシテ、民事訴訟法ハ所謂民事ノ取扱ヒ
デアルノデアリマスカラ、公法人ノ經費ヲ徵收スル
ト云フヤウナ公法的ノ關係ノコトハ其權利關係ニ付
テ裁判所ハ訴ヘテ司法處分ニ依ル強制徵收ヲスルコ

○政府委員(村上隆吉君) 水産專門ノ會、若クハ會
議所ト致シマシテハ、此本案ニ一番似通ッテ居リマス
ル例ガ、英吉利ノ水産委員會トデモ譯シマスカ、此委
員會制度ガ一番能ク似テ居ルト思ヒマス、ソレハ「カ
ウンテイ」イ、ボロー」ヲ基礎ト致シマシテ其等ノ者、
若クハ其他ノ住民ノ水産關係者二十人以上ノ者ガ委
員會ヲ作ッテ置ヒタイト云フコトヲ申出レバ、常務委
員ノ方デソレヲ至當ト認メマスルト、ソレヲ其地方
ニ公告シテ異議ヲ求メテ、而シテ著シキ異議モナシ、
大體ニ於テ皆ソレヲ望ンデ居ルト云フ風ニ見ラル、
場合ニ、其設立ヲ命令ノ形式ニ於テ設立ヲスルト思
ヒマスガ、兎ニ角任意ノ申出ヲ條件トシテ設立イタ
シマシテ、サウシテ各地方、殊ニ又水産ノコトデアリ
マスカラ、聯絡ハ系統的ニヤラナケレバナラヌノデ
アリマス、ソレガ爲ニ「コミッテイ」即チ委員會ヲ作
ラセテ、サウシテ中央ニ常務委員ヲ置キ中央委員會
ト申シマスルカ、最近ノ千九百十九年ノ改正法ニ依
リマスルト、其中央委員會ヲ「アドバイス、コミッテイ
」ト名付ケテ居リマス、記憶シテ居リマスガ、サウ
云フ委員會ヲ作リマシテ、而モ法律ニ於テサウ云フ
委員會ヲ作リ、常務員ニ於テ水産ニ關スルヤウナ仕
事ヲスル場合ニ、重要ナコトニ付テハ、緊急避クベカ

ラザル場合ヲ除クノ外ハ、其「コミッテイ」ノ意見ヲ聽イテ之ヲ「コミッテイ」デ判斷シテヤルト云フヤウナコトヲ、法律ニ規定シテ居ルヤウナヤリ方ニナツテ居リマス、其「コミッテイ」ヲ組織シテ大體ニ於テ此案ト宜ク似テ居ルヤウニ承知シテ居リマス、而シテ其經費ハ國庫支辨デヤツテ居リマス、國ノ經費カラ出シテ居リマス、即チ國ガ之ニ關スル經費ヲ支出スルト云フ様ナヤリ方ニナツテ居リマス、ソレカラ水産專門デハゴザイマセヌケレドモ、獨逸ノ農會會議所ガ此案ノ趣旨ニ於テ實ニ宜ク似通ツテ居リマス、法律ニハ行政廳ト協力ヲシヤウ、行政官廳ノ補助デヤルト云フヤウナコトガ法律文ニマデ加ヘテ居リマス、サウシテ國王ノ命令ニ依テ設立スル、ソレカラ其經費ハ獨逸ノ農會會議所デハ、地租ノ附加稅ニ致シマシテ、兎ニ角稅トシテ取立テ居リマシテ、府縣ノ金庫ニソレヲ取扱ハセル、農會會議所ノ方ニ交付サレルト云フコトニナツテ居リマス、佛蘭西ノ農會會議所ハ矢張り同ジヤウナ組織ノ下ニ設立サレテ居リマシテ、サウシテ是トモ其經費ノ負擔ニ付キマシテハ、不動產稅ニ對スル附加稅ヲ以テ補充スル、斯ウ云フコトニナツテ居リマシテ、勿論稅トシテ徵收シテ居リマス、先ヅ私ガ承知シテ居リマス所デハ、是等ガ一番似通ツテ居ルノデハナイカト思ヒマス

○荒川義太郎君 マダ伺ヒタイコトガモウ一箇條ゴザイマスルガ、ソレハ先刻西久保サング仰シヤイマシタ通り、大臣力次官ガ出ラレタ時ニ伺ヒタイと思ヒマスカラ……、矢張り行政廳ノ監督デゴザイマスカ、ソレヲ一應……

○西久保弘道君 アナタドウゾ先ニ
○荒川義太郎君 ソレデハ私ハチヨット伺ツテ置キタイノデスガ、此政府委員ノ御話ニナツタ商業會議所法ノ大正五年ニ改正ニナツタ時分ニ 何レノ時力知リマセヌガ、兎ニ角政府ハ此強制ノ徵集法ノ事ニ付テハ此商業會議所ノ案ニハ此強制徵收法ヲ設ケルコトヲ今日即チ提出スルガ、今後ニ於テ農會等ノ如キモノニ至ツテハ是ハ決シテ強制徵收法ノ事ハヤラナイ、斯ウ云フヤウニ仰セニナツタヤウニモ聞イテ居リマスガ、ソレガ私ハ農會バカリデナシニ將來ハ水産

會ガ出來ルトカ、或ハ蠶業會ガ出來ルト云フヤウナ場合ニモ、殆ドサウ云フ様ナ方法ヲ設ケナイト云フヤウナ言明ニナツテ居ルガ如ク聞イテ居リマスガ、併シ先日農商務大臣ガ議場デ御答辯ニナツタ所ニハ、農會ノ如キモノハ行クハ止メテ、強制徵收法ニ依ルヤウニシタイト云フヤウニ御話ニナツタヤウニ伺ツテ居リマスカ、其點ニ付テチヨット伺ヒタイ

○政府委員(田中隆三君) 御答ヘ致シマスガ、商業會議所法ノ改廢ニ際シマシテ、當時ノ農商務大臣或ハ政府委員等ヨリ御答ヘ致シマシタコトハ、只今仰セノ通りデゴザイマス、併ナガラ其當時ノ應答ニ致シマシテモ、誠ニ其時ノ御答ハ目下ノ現狀ニ於テハ商業會議所法ノ改正ノミデ、農會其他ノ方ノコトニ付テハ及ボス必要ガナイト思フト云フ趣意デアッタラウト、私ハ解釋イタシマスノデアリマス、唯今手許ニ速記録ガゴザイマセヌガ 丁度速記録ノ寫シガアルサウデゴザイマスカラ、矢張り是ニハ河野農商務大臣ノ御答ヘノ御言葉ニモ、目下ノ商業會議所以外ニ於テ、強制徵收ヲ許スト云フ意思ハゴザイマセスト云フコトニナツテ居リマシテ、何處迄モ將來世ノ中ノ事情ノ變遷ガアツテモ、何處迄モソレヲ固執スルト云フ程強イ意味デハナカッタラウト思ハレマスノデアリマス、ソレカラ唯今ノ問題ト致シマシテ、此度ノ水産會法ノ提出致シマスニ付キマシテ、矢張り農會ノ事ト牽聯イタシテ色々相談モアッタデゴザイマス、ゴザイマスガ、御承知ノ通り其農會法、今日ノ農會法ハ極メテ簡單ナモノデアリマシテ、條文ノ點カラ申シマス五箇條、五箇條ノ中ノ一箇條ハ既ニ削除ニナツテ居リマス、單ニ農會ハ農事ノ改良發達ヲ圖ル爲ニ拵ヘタト云フコトト農會ハ市町村ノ農會、道府縣等ノ農會ナドハ、農會ニ關スル規定ヲ以テ之ヲ定ムト云フ、法律ガ是レダケデアル、極メテ簡單ナモノデゴザイマス、而シテ其農會ガ法人デアルト云フコトハ、其ノ命令ノ方ニチヨット載ツテ居リマスガ、極メテ簡單ナルモノデゴザイマシテ、ドウシテモ此農會法ト云フモノヲ根本的ニ大分改廢ヲシナケレバナラスト云フ事情ニ迫ツテ居ル、併ナガラ隨分其農會ノ性質權限等ニ付テハ重大ナ事項ノ中ニ、帝國農會

其他農會關係ニ從事セラレテ居ル方ニシテ、農商務省ニ對シテ……農商務省ニ對シテデナク學會等ニ於テ審議討論サレマシタ農會法ノ今後ノ改正ニ對シテ、御希望ノ事項ト云フモノガ段々アルサウデ、其事項ノコトニ付テ農商務當局トシマシテハマダ決シ兼テ居ル問題ガ二三アルデアリマス、此度ノ議會ニ法律ノ改正案ヲ提出スルト云フ運ビニハ至リ兼マスノデ、此次ノ議會マデニハソレ等ノ問題ヲ決シマシテ御協賛ヲ仰グト云フ順序ニナラウト思ヒマス、其場合ニ於キマシテハ矢張り帝國農會ト云フモノモ、此水産會ト云フモノニ準ジマシテ、費用ノ問題ハ強制徵收ト云フ風ニシナケレバナナルマイカト云フ心持ニナツテ居リマスガ、唯農會ニ付テハ唯今御尋ノゴザイマシタ通り假令目下ト云フ言葉ガアッタニシマシテモ、貴族院ニ於ケレマシテモ大分其點ニ付テ念ヲ入レテ御議論モアッタコトト承知シテ居リマス、又モウ一ツニハ農會ノ方ハ單位トナツテ居リマス、基礎ノ各町村ハ非常ニ數モ多イシ、小サイ所モアリマスシ、且又今日ノ現狀ニ於テ甚ダ遺憾デハゴザイマスケレドモ其農會ノ中ニハ不整理ノモノナドガ往々アルト云フコトデ、是等ノモノヲ此儘ニシテ置イテ強制徵收ノ權力ヲ與ヘル、ソレデ費用ヲ取立テヤウ、取立シムルト云フコトデ、万一何カ弊害ヲ起スコトガアリハシマイカ、此點ハ深ク考慮シナケレバナラヌト云フコトデ、ソレ等モ實ハ決シ兼ネテ居リマス、重要ナル事項ノ一ツデアリマスケレドモ、大體トシテモ唯今水産局長カラ御願申上ゲマシタ通り今日ノ裁判所ノ解釋ノ上カラ、費用ノ問題ハ公法人デアリトスレバドウシテモ此強制徵收ノ方法ヲ執ラナケレバ、詰リ民事裁判所ニ持テ行ツテヤルヨリ仕方ガナイトスレバ、ドウモ矢張り望マシイ事デハナイガ強制徵收ノ方法ヲ取ラナケレバイケマイ、併シ徵收ノ方法ヲ與ヘズシテモ自治ノ精神ニ富ミ苟モ會員タル者ニシテ互ニ相戒メ相勵ンデ費用ノ分擔ヲ進ンデソレニ相應ズルト云フヤウナ風ニトカ、自治的ニデモサスカ、費用ノ強制徵收ヲスルト云フ途ガナイニシテモ全ク其自治團體ニ任スト云フ迄ニ、一ツ思切ツテ所謂強制徵收賦課ノ方法デヤラセルカ、ソレデハ立行

其他農會關係ニ從事セラレテ居ル方ニシテ、農商務省ニ對シテ……農商務省ニ對シテデナク學會等ニ於テ審議討論サレマシタ農會法ノ今後ノ改正ニ對シテ、御希望ノ事項ト云フモノガ段々アルサウデ、其事項ノコトニ付テ農商務當局トシマシテハマダ決シ兼テ居ル問題ガ二三アルデアリマス、此度ノ議會ニ法律ノ改正案ヲ提出スルト云フ運ビニハ至リ兼マスノデ、此次ノ議會マデニハソレ等ノ問題ヲ決シマシテ御協賛ヲ仰グト云フ順序ニナラウト思ヒマス、其場合ニ於キマシテハ矢張り帝國農會ト云フモノモ、此水産會ト云フモノニ準ジマシテ、費用ノ問題ハ強制徵收ト云フ風ニシナケレバナナルマイカト云フ心持ニナツテ居リマスガ、唯農會ニ付テハ唯今御尋ノゴザイマシタ通り假令目下ト云フ言葉ガアッタニシマシテモ、貴族院ニ於ケレマシテモ大分其點ニ付テ念ヲ入レテ御議論モアッタコトト承知シテ居リマス、又モウ一ツニハ農會ノ方ハ單位トナツテ居リマス、基礎ノ各町村ハ非常ニ數モ多イシ、小サイ所モアリマスシ、且又今日ノ現狀ニ於テ甚ダ遺憾デハゴザイマスケレドモ其農會ノ中ニハ不整理ノモノナドガ往々アルト云フコトデ、是等ノモノヲ此儘ニシテ置イテ強制徵收ノ權力ヲ與ヘル、ソレデ費用ヲ取立テヤウ、取立シムルト云フコトデ、万一何カ弊害ヲ起スコトガアリハシマイカ、此點ハ深ク考慮シナケレバナラヌト云フコトデ、ソレ等モ實ハ決シ兼ネテ居リマス、重要ナル事項ノ一ツデアリマスケレドモ、大體トシテモ唯今水産局長カラ御願申上ゲマシタ通り今日ノ裁判所ノ解釋ノ上カラ、費用ノ問題ハ公法人デアリトスレバドウシテモ此強制徵收ノ方法ヲ執ラナケレバ、詰リ民事裁判所ニ持テ行ツテヤルヨリ仕方ガナイトスレバ、ドウモ矢張り望マシイ事デハナイガ強制徵收ノ方法ヲ取ラナケレバイケマイ、併シ徵收ノ方法ヲ與ヘズシテモ自治ノ精神ニ富ミ苟モ會員タル者ニシテ互ニ相戒メ相勵ンデ費用ノ分擔ヲ進ンデソレニ相應ズルト云フヤウナ風ニトカ、自治的ニデモサスカ、費用ノ強制徵收ヲスルト云フ途ガナイニシテモ全ク其自治團體ニ任スト云フ迄ニ、一ツ思切ツテ所謂強制徵收賦課ノ方法デヤラセルカ、ソレデハ立行

カスト云フコトデアレバ唯今申上ゲタヤウニ、矢張り強制徴収ノ方法ヲ付ケナケレバナラヌカ、餘ホド其所ニ苦シテ居リマス、併シ付ケルト、取立ノ途ヲ付ケナケレバナラヌトスレバ、矢張り強制徴収ノ方法デヤラナケレバナルマイ、唯今ノ所デハヤラセルヤウナ空氣ヲ以テ將來ノ法律案ニ付テハ準備イタシテ居ル譯デアリマス

○荒川義太郎君 サウスルトマア今私ハ速記録ヲ手許ニ持テ居リマセズ、先刻申上マシタ通り十分ニ速記録ヲ調ベテ御話イタシタノデアリマセズガ併シナガラ農商務次官ノ例ニ御讀ミニナツタ所デ承知イタシマシタガ、兎ニ角併シ其當時目下急ガナイト云ッテ答ヘラレタトシタ所ガ、是等ノ事業ニ向ッテ其當時ノ即チ大正五年ト今日トハソレ等ノ事業ニ付テモ非常ニ事情ガ異ナツタ所ガアルト私ハ考ヘマスガ、是ハ強制徴収マデシテ行カナケレバナラヌト云フモノデアルカ、ナイカ、ソコヲ點ハ執考シテ見ナケレバ分リマセズガ、チヨット考ヘル所デハソレ等ノ所ノ事情ヲ承知シタヤウニハ考ヘマセズ、併ナガラ今ノ御辯明ニ依リマス農會ナドハ矢張り追々強制徴収ノ方法ヲ取ラレル御方針デアルト云フコトニ御話ニナツテ居リマスカラ、サウスルト其他ニモ類似シタモノデ此間ノ議場デモ説明ガアリマシタ山林ニシロ同様段々設ケラレテ、是等モ強制徴収法ニ依テ是カラナサルト云フ御方針デアリマスモ、モウ一遍

○政府委員(田中隆三君) 御答ヲ致シマスガ、山林等ノ組合ニ付テノ意見デスカ、強制徴収ト云フコトハ全ク考慮ノ中ニ置イテゴザイマセズ、唯今ノ所問題ガナイモノト御承知ヲ願ヒマス、或農會ニ付テ唯今申上タヤウニマデト云フ譯デハ無論ゴザイマセズ、又農商務省ノ方針トマデ強ク申上ゲルコトハ今日デハ如何デアルカト思ヒマス、餘ホド農商務大臣ニ於テモ御考慮ニナリマシテ、結局矢張り強制徴収ニデモナルマイカト云フ位ニ其方ニ傾イテ居ラレルガ、マダ確定シテ此次ノ農會法ニ入レ強制徴収ニスルト云フ迄ノ御決心ニナツテ居ル譯デハゴザイマセズ

○荒川義太郎君 モウ一ツ伺ヒタイ、唯今ノ御説明

ハ山林ノヤウナコトニ付テハ唯今ノ所サウ云フヤウナ考ヲ有テ居ラヌト云フ御話デアリマスガ、併シ矢張り前ニ目下ノ所サウ云フコトハナイト御説明ニナツテ居リマス、同ジコトデ唯今ナイト云ッテ、目下トナルト此將來直キニデモサウ云フコトガ起ツテ來ナイトモ私ハ考ヘラレマセズガ、追々強制徴収ガ廣ガツテ行クト色々ナコトニ之ガ適用ヲ望ミ、又政府ガソレヲ設ケルヤウニナル恐レガアリハシナイカ、尤モソレハ近頃ノモノデ、詰リ云フト水産會ノコトハ別ノコト、ソレニ成立テ居ル山林ノコトハドウモサウ云フコトガ出サウニ思フ、承ツテ居ルニ目下ノ所デハ其考ハナイト仰ッシヤツテモ、丁度今ノ商業會議所ガ改正ニナツタ目下ト云フ御話ノコトト同ジデ、又翌日ニデモ出テ來ルカ知レマセズガ、ソレ等ハドウデゴザイマセウ、モウ一度伺ヒタウゴザイマス

○政府委員(田中隆三君) 御答ヲ致シマス、詰リ山林ニ致シマシテモ或ハ農事ニ致シマシテモ、此度提案イタシマシタ水產會法ノ如キ所謂順序立ツ法律ヲ拵ヘテ、殊ニ其法文中ニソレハ公法人デアルゾト云フマデ斷ハツテ、相當ノ 唯今申上ゲタ言葉ハ過ギマシタガ所謂公法人ト、ソレヲ其精神ヲ以テ詳細ニ互リ、公益的ノ事業ヲ目的トシタ所ノ仕事ト、サウシテ又他ノ一面カラシテ、各般ノ取締等ノ規定ヲ設ケルト云フ必要ヲ認メマスルマデノ組合ニハ、御尋ノ如ク、強制徴収ト云フヤウナ方法マデモ付ケナケレバナラヌコトニハ、結局ナルコトト存ジマスノデアリマス、ケレドモ現在ニ於テ、唯今御例證ニナリマシタ森林ノ組合ノ如キハ、特ニ此水產會法ニ於テ水產ノ組合デゴザイマスルカ、或ハ又農會デアリマスルトカ云フモノマデモ進ンデ居リマセズ、極メテ簡單ノ組合ニナツテ居ルノデゴザイマス、今日ノ山林ナリ、森林ノ事情ニ於テ強制徴収ノ權力マデモ與ヘマシテ、規則立ツタ或組合ヲ作ラシメナケレバナラヌト云フ、所謂程度ニ其產業ガ進ンデ居ラヌ、其進ンデ居ラナイモノニ付キマシテハ、サウ云フ問題ガ起ラナイト云フ意味ニ於テ、目下ト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、ケレドモ外ノ產業ニ於キマシテ、矢張り之ニ準ジテ諸般ノ規定ヲ設ケナケレバナラナイ場合

ニ於キマシテハ、結局矢張り之ニ順應シテ強制徴収ノ規定ヲ設ケルコトニナラウト思ヒマス、繰返シテ申上ゲマスガ、詰リ農會ガ是カラ之ニ準ジテ矢張りサウ云フ規定ヲ置カドウカト云フコトヲ唯今考慮中デアリマシテ、極ク内情ヲ打明ケテ申上ゲマスレバ、多分其農會ノ方ハ矢張り徴収ト云フ規定ニナリサウナ考ニナツテ居ル、内部ノ模様ヲ申上ゲタノデアリマスガ……

○男爵本田親濟君 私ハ村上局長ニ今一應伺ッテ見タイノデアリマスガ、私ノ聽違ヒデアルカ知レマセマスガ、第一ノ質問トシテ定置漁業ノコトヲ伺ヒマシタ節ニ、種々御説明デアリマシタガ、要スルニ是ハ當局ニ於テ考慮中デアル、即チ各縣ニ依ッテ異ッテ其命令ガ異ッテ居ルト云フコトハ甚ダ面白クナイカラシテ、當局ニ於テハソレヲ考慮中デアル、デ、縣ノ方ニ任カスト云フコトハ宜クナイカトモ思フカラシテ、詰リハ農商務省デ統御スル方ガ宜イカトモ思フト云フヤウニ私ハ聽取ツタノデアリマスガ、或ハ國ニ依ッテ統御スルト云フ風ノヤウニモ承ツタシ……ドウ云フコトデゴザイマセウカ、モウ一應、甚ダ相濟ミマセスケレドモ……

○政府委員(村上隆吉君) 定置漁業ノ命令ガ府縣ニ依ッテ餘リニ區々ニナツテ居ルト云フヤウナコトノ命令ノ内容ニ付テハ、ソレ程トモ存ジマセズガ、取扱振ガ區々ニナツテ居リマシテハ先程御話ニナリマシタ組合、漁業組合ニ主トシテ免許スルヤウナ點モアル、或ハ個人ニ許スト云フヤウナ點モアルト云フヤウナ御話デアリマシタ、其點ハドウモアルヤウニ承知イタシテ居リマスカラ、此取扱振ヲ成ルベク統一スル方ガ宜シイト云フコトハ、多分サウ云フコトデアラウトシテ考慮イタシテ居リマスト云フコトデ申上ゲタ次第デアリマス、尙ホ之ヲ統一スルトスレバ、ドウスルカト云フ問題ニ付キマシテハ、此他ニ遠洋漁業ト云フヤウナモノガゴザイマス、ソレ等ガ農商務大臣ノ權限ニナツテ居ルノデゴザイマス、ソレハ同ジヤウニ農商務大臣ノ權限デ統一スル方ガ宜シイト存ジマス、但シソレハ定置漁業ニ付テモ、左様ナモノニ付テ考慮イタシテ居ル次第デアリマス

○男爵本田親濟君 尙ホ御伺シマスガ、先程ノ第三ノ問題トシテ七條ノ内ニアリマス水産組合及ビ其聯合ト漁業組合ヲ網羅スルカドウカ、斯ウ御尋シタノデゴザイマスガ、ソレハ御説明ニ依ッテ網羅ハシナイト云フコトハ丁解シマシタ、畢竟、此水産組合ニ這入ッテ居ル組合員及ビ漁業組合ニ這入ッテ居ル漁業者ト云フモノハ、何レモ……イヤ間違ヒマシタ、其内ノ水産組合ノ者ハ、鹽テハ水産會ノ方ニ組入レルヤウニスルノデアリマスカラ、漁業組合ノ者ハ網羅シテ居ラスト、斯ウ仰シヤイマシタ、此漁業組合ノ者デモ漁業權ヲ持ッテ居ル者デアラウト思フ、ソレデハ無論水産會ニ這入ルベク御誘導ナサル譯デアラウト承知シテ宜シイノデゴザイマスカ

○政府委員(村上隆吉君) 水産組合ノ方ニ付キマシテハ、先程申上ゲマシタヤウニ、類似ノモノハ引直サセル積リデアリマスカラ、結局重複ハ無イヤウニ致ス積リニ心得テ居リマスルガ、漁業組合ノ方ニ付キマシテ、唯今組合員ニモ權利ヲ有シテ居ル者モアルダラウカラト云フ御引證ニナリマシタノデアリマスルガ、漁業組合ナルモノハ、御承知ノ通り或漁業權ヲ有セシメマスル手段トシテ、法人組織ヲ作ラセマシタノガ、抑々漁業組合ノ始マリデゴザイマス、サウ云フ趣旨デ漁業組合ガ出來テ居リマスノデ、組合員タル者ハ、形容シテ申セバ、集ッテ其權利ヲ持ッテ居ル状態デアリマスガ、法律上其有ニナリマセヌデ、組合ト云フ法人ヲ形造ッテ、其組合ト云フ名前デ漁業權ヲ持ッ、斯ウ云フ組織ニナッテ居リマス、斯ウ云フ組織ガ出來マシタノハ、私ノ承ッテ居リマス所デハ、漁業ニ關シテ昔カラ一種ノ權利狀態ガ發生シテ居ル、ソレヲ濱方ノ者ニヤラスニ個人ニ分ケテアル譯ニ行カズ共有トスルノ面白クナシ、又將來其部落ガ子々孫孫繁榮シテ行ク方針トシテハ組合トシテ存シテ置ク方ガ宜シイト云フコトカラ、漁業組合ヲ勸メテ造ラシテソレヲ法人トシテ、ソレニ權利ヲ與ヘルト云フ趣旨デ、漁業組合ト云フモノハ出來テ居リマスカラ、從ッテ今度ノ水産會ナドハ性質ニ於テソククリ違ッテ居リマス、而シテ今御話ノ漁業組合員ニシテ漁業權ヲ有スル者ガアリト致シマスレバ、其時ハ漁業組合

ガ持ッテ居リマスル權利トハ九デ關係ノ無イ權利ヲ持ッ場合モ、ソレハ有リ得マスケレドモ、ソレハ其權利ニ基イテ加入イタシマシタ場合デアリマスガ、併シ漁業組合ガ持ッテ居ル權利ヲ又持ット云フコトハ無イ譯デアリマス、又施行規則等ニ依リマシテ、一人ノ人間デ色々ナ事業ニ掛カラナケレバナラヌト云フヤウナ場合ニハ、一ツノ事業ト致シマスル積リデアリマスカラ、重複關係ハ先ヅ無イト心得テ居リマス

○男爵本田親濟君 序デスカラ伺ッテ置キマスガ、此第十條ノ内ニ「取引若ハ保管ノ業ヲ營ム者」ト云フコトガアリマスガ、取引若クハ保管ノ業ト云ヒマス、トナ取引ヲシ、又水産物及ビ其魚類ノヤウナモノノ保管ヲ營ンデ居ル者ガアラウト思フ、勿論單ニ肴ヲ賣ル元組ト云フヤウナモノハ勿論斯ウ云フモノニ這入ラスダラウト思ヒマス、今申シマシタ俗ニ云フ普通ノ肴屋デ手廣ク取引ヲシテ保管ヲ營ンデ居ル者ガアリトスレバ、ソレ等モ當然水産會ノ會員タル權利ヲ有スル譯ニナリマスカ

○政府委員(村上隆吉君) 保管ヲ業トスルト云フ字ヲ特ニ書キマシタノハ、是ハ主トシテ鮮魚ノ冷藏業者ヲ豫想シマシテ主トシテ入レマシタノデアリマス必ズシモ冷藏業ノミニ限ルノデアリマスルト狹クナリマスカラ、ソレヲ稱シテ保管ト言ヒマシタ、御話ノ手廣ク營ンデ居ル魚ヲ取次グ方ノ販賣ニ從フコトニナリマスレバ、是ハ會員ニナリマセヌ、御話ノ元組ト云フヤウナモノハ販賣ヲ營ムモノニ相違アリマセヌガ、十條ニアリマスル「命令ヲ以テ規定シタル者ヲ除ク外」ト云フ命令ノ規定デ除クト云フモノハ、先ヅ元組ノ如キモノハ除キタイト思ッテ居リマス

○男爵本田親濟君 「命令ヲ以テ規定シタル者ヲ除ク」ト云フモノハ、是ハ施行規則ヲ以テ別ニ定メラル、譯デアリマスカ、此儘デハ解釋ニ苦シム譯デアリマス

○政府委員(村上隆吉君) 茲ニ申シマスル命令ト申シマスルノハ、施行規則デ規定イタシマスル積リデアリマス、元組ノ如キモノトカ其外規定イタスモノニ除キマスモノハ、鹽ノ製造業者ノ如キモノ、鹽ノ製造ヲ致ス者デアリマスレバ、是ハ全ク別ノモノニナッテ居リマスカラ、除イタ方ガ宜クナイカト云フ豫想ニナッテ居リマス、但シソレヲ決定イタシマスニ付テハ、今申シマシタ水産主任官ノ意見モゴザイマスガ、尙ホ丁寧ニ致シマス爲ニ地方長官ノ意見ヲ徵シテ決定スルツモリデ、ソレハ準備イタシテ居リマス、施行規則ニソレ等ノコトハ規定イタス積リデアリマス

○委員長(伯爵吉井幸藏君) モウ御質問ゴザイマセスカ

○男爵本田親濟君 マダ外ニ幾ラモアリマスケレドモ、モウ少シ研究シナケレバ今直グアルト云フ譯ニ參リマセヌカラ

○委員長(伯爵吉井幸藏君) 私ハ少シ伺ヒタイ、今次官カラ御説明ニナリマシタ二十七條ノコトデアリマスガ、之ニ付キマシテ今後農會ハ矢張り水産會ノ此本案ニアル如キコトヲスルヤウナ場合ガアルカ、規則ナドヲ改正スルカモ知レナイト云フ御考デモアリマセウカ、サウシテ外ノ類似ノ會、即チ山林會トカ畜產會トカ、サウ云フ會ニ付テハマダ何モ考慮シテ居ラス、斯ウ云フノデアリマス、ソレカラ是ハ今此水産業ニ從事シテ居ル國民ハドノ位ナ數デアリマス、是ハ此法案ニハ漁業者勞働者ハ水産會ニ出ルヤウナ規定デナイヤウデアリマスガ、其點ニ付テハドウデアリマス、ソレハ大體ノ質問デアリマスガ、今日ハ漁村モ大分發達シテ發動機モ殖エテ、從來ノ小サナ港デモ是等ヲ使用スルコトノ根據地ニ不足シテ居ル、根據地ガナイカラ、サウ云フ事業ガ發達セヌト云フ傾向ガアルヤウニ思ハレマス、ソレデ港口修築ト云フコトニ付テハ、政府ニ於カレテハ如何ナル御考ヲ持ッテ居ラレマス、先ヅソレダケヲ……

○政府委員(村上隆吉君) 第一ノ御尋ネニ付キマシテ私カラ申上ゲルノモ如何カトハ存ジマスルガ農會ノ例ニ付キマシテハ先程次官カラ申サレマシタ如ク農商務部内トシテ私ノ承知シテ居リマス所デハ、農會ニ關スル法規ナリ事實上ノ關係ナリノ整理ガ出來テ、此案ト同様ノ御方針デ此案ヲ立テ、サウシテ其ソレニ相當シタ整備モ出來タト云フ場合ニハ、サウ云フ規定モ設ルヤウニナルカト豫測シテ居リマス、

造ヲ致ス者デアリマスレバ、是ハ全ク別ノモノニナッテ居リマスカラ、除イタ方ガ宜クナイカト云フ豫想ニナッテ居リマス、但シソレヲ決定イタシマスニ付テハ、今申シマシタ水産主任官ノ意見モゴザイマスガ、尙ホ丁寧ニ致シマス爲ニ地方長官ノ意見ヲ徵シテ決定スルツモリデ、ソレハ準備イタシテ居リマス、施行規則ニソレ等ノコトハ規定イタス積リデアリマス

併シ山林會ノ方ニ付キマシテハ私ハ省内ニ於テ承知
シテ居リマスル範圍デハ、今日マダサウ云フ法案ヲ
作リタイト云フ計畫スラマダ聞イテ居リマセス、差
當リサウ云フコトヲスルモノハナイヤウニ見受ケラ
レテ居リマス、但シ林業ノ發達ニ伴レマシテ將來ト
モ絶對ニサウ云フコトハナイト云フコトハ無論申上
ガラレベキ筋合デモナイコトデアリマスガ、唯今ノ
所デハ當分サウ云フ事ノ來ルヤウニハ承知イタシテ
居リマセス、現ニ例ハ、山林局ノ一部デサウ云フ立
法ノ手續ヲシテ見テ居ルトカ、サウ云フ希望ヲ持ッ
テ居ルトカ云フコトハ私トシテハ承知シテ居リマセ
ス、個人トシテハ一二議論ヲスル人ガアルカモ知レマセ
スガ、ソレハ一々ノトハ存ジマセスガ、山林局トシ
テ承知シテ居ル所デハ先ヅナイノデアリマス、尙ホ
外國ノ例ヲ申上グルヤウデアリマスガ、獨逸アタリ
ハ山林ハ殆ンド農業ト一緒ニヤッテ居リマス、我國ノ
ヤウニ分立シテ制度ハナイヤウニ承知シテ居リマス
殊ニ畜産會ニ至リマシテハ全ク何等モ承知イタシテ
居リマセス、先日本會議ニ於テ上山サンカラ御質問
ガアリマシタガ、私共ハ畜産會ヲ公法人トシテ、茲ニ
水産會ナリ商業會議所ナリト同ジヤウナ風ニ取扱ッ
テ宜イカト云フコトハ、無論同ジヤウナ事業デア
ルカラ宜イ譯合ダトハ申上ゲ兼ネマス、先ヅ此農會ト
カ水産會トカ商業會議所トカ云フヤウナモノガ公法
人デアリマスル以上ハ、同ジ業態デアルト云フヤウ
ナモノヲ幾ツモ幾ツモ公法人ト致シテ宜イ筋合ノモ
トハ思ヒマセス、餘程ノ將來ニ於テ産業ガ非常ニ
發達シタ場合ニハ絶對ニナイトハ言ヘマセスグレド
モ、併ナガラ此處五年十年或ハ其幾倍カノ間ニ何カ
總テノ産業ガ各々分裂シテ行ッテ、公法人タル性質
ノモノハ總テサウ云フ機關ヲ實施シナケレバナラヌト
云フ、サウ云フ風ニ言ヘルモノデアリマセス、畜産
會ノ如キハサウ云フ議ガアルト云フ事スラマルキリ
存ジテ居リマセス、現ニ又外國ノ制度デモ皆農會ノ
中ニ這入ッテ居リマス、公法人ト云フ性質カラ申シ
マセス併シ是ハ私ノ農商務省ニ居リマス關係上、殊ニ
承知シテ居リマスコトダケヲ申上ゲマシタ次第デア

リマス、第二ノ水産業ニ從事イタシマスル人數ニ付
キマシテハ、統計ガ不完全デアリマスガ、各種ノ統計
カラ大體豫想シマシテ一應數字ヲ書出シマシタ所ノ
現時水産會員ノ見込ノ數ト云フモノガゴザイマスガ
ラ、其概數ダケヲ御參考ニ申上ゲタイト思ヒマスガ、
漁業者ニハ十條ノ漁業者トシテ加入シ得ベキモノガ
六十八萬餘人アリマス、又製造業者ト云フ立場カラ
加入シ得ベキ者ガ約五萬人カト想像シテ居リマス、
細カク申上ゲマスレバ細カイ數字ハ持ッテ居リマス
ガ、大體サウデアリマス、取引又ハ保管ノ業ヲ營ム
ト云フ者ハ大體ニ於テ先ヅ三萬五千デアリマス、漁
業權ヲ有スル者ガ約六萬人ゴザイマス、約八十三萬
人ト云フ見當ニナルト考ヘテ居リマス、第三ノ漁業
労働者ヲ會員トスル様ナ規定ガ見エナイト云フ御尋
ネニ付キマシテハ、此問題ハ非常ニ重要ナ問題デア
リマシテ、私共モ此案ヲ編纂スル時ニ餘程考慮イタ
シタノデアリマスガ、何分今日ノ社會ノ全體カラ申
シマシテモ、純然タル賃銀労働者ヲ、斯ウ云フ公法人
タル性質ノ會ニ直接ニ會員トナルト云フヤウナコト
ハ、殆ドナイモノト承知シテ居リマス、殊ニ水産ノ方
ハ教育ノ程度知識ノ關係等ニ於キマシテ、賃銀労働
者ハ他ノ賃銀労働者ヨリ比較的知識關係ニ於キマシ
テモ低位ニ居ルモノト思ヒマス、隨テ他ノ産業團體
ガサウ云フ狀態デアリマスル際ニ、純然タル賃銀勞
働者ヲ直接會員トナス事ガ、結局マダ早過ギハシナ
イカ、殊ニ他ノ産業ト水産業トノ鈞合カラ考ヘマシ
テモ、左様考ヘマシタノデ、此度ハ入レマセスデシタ
ケレドモ、但シ此點ニ付キマシテ一應御聽取リヲ願
ヒタイコトハ水産關係ニ於キマスル資本ト労働ノ關
係ハ、他ノ産業ニ比シテ比較的圓滿ニ行ッテ居ルト思
ヒマス、ト申スハ一ツハ漁業ノ性質ニモ依ルト思ヒ
マス、漁師ハ海ニ出テ荒イ所ニ働クノデアリマスガ
ラ、其中ニハ一人ガ働カナクテモ全體ノ生命ニモ影
響スルノデアリマス、一致團結シテ働キマスガ、又大
工場ニ勤メテ居ル者ト違ヒマシテ人數ハ少ナイデス
カラ家族的ニモナリマス、又資本家ノ方ハ陸ニ居ッ
テ一切ヲ労働者ニ任サナケレバ仕事ガ出來ナイ、自
分ガ海ニ行ッテ監督スル事ハ出來マセス、隨テ労働者

ニ信賴シナケレバナラヌ、労働者ノ方モ亦資本家ニ
信賴スルト云フ關係ガ漁業ノ性質カラ來ルト思ヒマ
ス、事實ニ於テモ、餘程サウナッテ居リマス、隨テ此所
得分配ノ方法ヲ他ノ産業ヨリモ著シク發達シテ居リ
マス、隨テ古クカラアリマスル在來ノ漁業ニ付キマ
シテモ、所得ノ幾割ハ労働者ニヤルト云フコトガ殆
ド一般的ニ行ハレテ居リマスシ其中ニモ静岡縣ノ燒
津ニ行ハレテ居リマス船中ノ制度ト云フモノハ、是
ハ世界ニ誇リ得ル制度ダト思ヒマス、英吉利ノ所謂
利益分配ヨリハ、所得分配ヨリハ一步進ンデ居リマ
ス、獨逸ノ保險制度ノ如キ不時ノ事故ノアツタ後ニ於
テノミ或働キヤスルト云フ保險制度ノ其意味ヲ含
デ居リマスガ、併シ其本人ノ生前中若クハ不慮ノ事
故ノ發生前ニ於テ本人ナリ、若クハ徵兵ニ行ッタ者マ
デモ色々ノ方法ニ依テ然ルベキ處置ヲヤッテ置クト
云フヤウナヤリ方ハ、英米ノ利益分配、尙ホ進ンデ所
得分配ト云フヨリモ進ンデ居リマス、獨逸ノ方ノ制
度ヨリモ進ンデ居ル位ノ制度ガ行ハレテ居ルノデア
リマシテ、其結果労働者ハ所得ヲ積立テ、段々船主
ニナルト云フ形ニナッテ居リマス、漁業組合モ全國ニ
行ハレテ居リマスガ、ソレモ統御スルコトニ努メテ
居リマスシ、其他兩三年ヲ通ジマシテ當局ニ於キマ
シテモ、水産主任官若クハ漁業主任等ノ講習會ヲ致
ス場合ニ於テモ、常ニ此關係ヲ説明イタシ、殊ニ先程
申シマシタ漁業權ガ漁村ノ爲ニ行ハレテ居ルト云フ
關係モアリマスカラ、今度ノ營業者モ漁業者ト云フ
コトニナッテ居リマスカラ、營業者ヲ成ルベク指導シ
ナケレバナラヌ、サウシテ漁村ノ圓滿ナル發達ヲ期
セナケレバナラヌト云フコトニ付テハ、常ニ相當監
督ヲ怠ラナイ積リデアリマス、サウ云フ風ニ致シマ
シテ、現在ノ狀況ニ於テハ所得ガ少ナイカラ、一方指
導ヲ致シマスガ、併シソレニ依テ完全イタシマセス
カラ、此水産會法ノ如キ特ニ委員會制度ニ依リマシ
テ、何等カノ規定ヲ設ケマシテ、サウシテ一方ニ法律
ヲ以テ解決シタイ、實情ニ適フヤウナ解決ヲ致シテ、
思想ノ激シクナルヤウナノヲ防グヤウナ手段ヲ取リ
タイ、サウ云フ手段ヲ一面ニ講ジマスコトニ依テ、取
リモ直サズ出來ルダケ賃銀労働者ノ地位ノ向上ト云

フコトニ付テハ、ヤリタイト云フコトヲ一面ニ於テヤツテ居ルノデアリマス、併シ一面ニ於テ他ノ産業等ニ比シマシテモ、純然タル賃銀労働者ヲ直接會員ニスル事ハ、他ノ産業ト水産ノ關係ニ於テダケ見マシテモ、早過ギルト思ヒマスカラ入レナカッタ次第デアリマス、第四ニ漁村ノ發達ニ伴ウテ漁港ノ必要ト云フコトニ付キマシテハ、御話ノ通りデアリマシテ、從來船ヲ濱方ヘ引上ゲテ居リマシタガ何分大キナ魚ヲ獲ラナケレバナラヌシ、速力ヲ早クシナケレバ他ノ船ニ追越サル、ト云フ所カラ、ドウシテモ船ハ大キクナリ機關ヲ付ケマシタリ「プロペラ」ヲ付ケマスト之ヲ濱方ニ船ヲ曳上ゲルト云フ事ハ船ノ保護上ムヅカシイト云フコトニナリマスルカラ、ドウシテモ安全ニ繫船スベキ漁港ヲ出來ルダケ多ク各方面ニ造ルト云フコトハ勿論デゴザイマシテ、當局トシテモ出來ルダケ努メテ居ル次第デアリマスガ、唯財政上ノ都合モアリマシテ思フヤウニ參リマセヌガ、兎ニ角大正七年カラ始メマシテ、今度ノ豫算ニ組入レテアリマスモノヲ數ヘテ、全部入レマスト先ツ十一ノ漁港ニ全部著手シテアルノデゴザイマス、尙ホ年々財政ノ許ス範圍ニ於テ少クトモ二ツ三ツ宛ハ殖ヤシテ行キタイ、尤モ是ハ北海道ニ於ケル漁港計畫ハ北海道ノ拓殖計畫デアリマスカラ、北海道以外ノ内地ノ話デゴザイマスガ、サウシテ政府ニ於テ漸次目的ヲ達成シタイ、ソレニハ國費ヲ以テ補助イタシマスノハ大キイ漁港ノコトデアリマスガ、少サイモノトシテハ例ヘバ縣費デ補助スル程度ノモノ、即チ郡ガ造ッテ縣ガ補助スル、若クハ町村ニテ防波堤ヲ造ルニ對シ郡費ヲ補助スルト云フ程度ノモノニ付テハ之ヲ假ニ助成港ト名付ケマシテ私共ノ方ノ技師ノ都合ノ付キマス限リ、各方面ニ出張セシメマシテ、精密ナル設計ヲシテ、圖面ヲ與ヘテソレニ依テ造ラシメル、要スルニ金ヲ補助シナイガ技術ヲ補助スルト云フヤウナ方面ニ於テ殖ヤシテ行キタイ、既ニ政府モ注意シテ居リマスカラ、是カラ益々殖ヤシテ行キタイと思ッテ居リマス、大體申上ゲマシタヤウナ方針ニ依テ、漁港ヲ漸次發達セシメテ行ク、斯ウ考ヘテ居リマス

○委員長(伯爵吉井幸藏君) 先日モ御話ガアリマシタガ、漁撈區域モ殖エテ來タ、漁船モ非常ニ増シタヤウナ場合ニ於テ漁獲ノ數量ガ殖エナイ、是ハ寔ニ大事ノコトト考ヘマスガ、是ハ如何ナル原因デアリマスカ、御調査ニナリマシタノデアリマスカ
○政府委員(村上隆吉君) 此問題ハ私モ當局ノ責任ト致シマシテ、餘程重要ナル問題ト考ヘマシテ、心配イタシテ居ル問題デアリマスルガ、何分ニモ統計ノ示シマス所ガ甚ダ面白クナイノデアリマス、此私共ガ取ッテ居リマス統計ハ、農商務省ノ統計ヲ根據ト致シマスノデ、農商務省ノ統計ニ付テハ随分非難モゴザイマス、我々モ足ラス所ガ大分アルと思ヒマスガ、之ヲ以テ確實ニ、絕對ニ、此數字ノ示ス通りデアルト申上ゲルコトハ少シ憚ラナケレバナラヌト思ヒマスガ、鯉トカ、鰯トカ、鰺トカ云フ様ナ、所謂日本人ニ取リマシテ重要漁族ノ數ガ……漁獲高ガ、直段ニ於テハ勿論物價騰貴其他ノ關係上大分殖エテハ居リマスガ、數量ニ於テハドウモ殖エナイ、面白クナイ様ニ思ハレマス、ソレガ著シク減ッテハ居リマセヌ、減ッテハ居リマセヌケレドモドウモ増加額ガ船ノ數ニ、例ヘバ動力付ノ船ノ數ガ殖エテ行ク割合ニ對シテ其數量ガ殖エナイノミナラズ、停止ノ狀態ニアルト云フ批評ヲ致シテモ宜シイ様ナ狀態デアリマス、一例ヲ申上ゲマスルト云フト鰯ノ如キハ大正二年カラ大正八年マデノ例ヲ取リマシテモ、數量ニ於テハ減ズル傾向コソアツテ、殖ニル傾向ニハナツテ居リマセヌ、尤モ茲ニ私ガ今持ッテ居リマス統計ニ付テ見テモ、此數字ハ唯今私ハ絕對ニ信用ハ致シテ居リマセヌガ、兎ニ角殖エル傾向ニナツテ居リマセヌ、居リマセヌガ併ナガラ唯鰯船モ、發動機船ノ數ハチヨット持ッテ居リマセヌガ、一概ニ數ハ此通り殖エタトハ申シマセヌケレドモ、併シ發動機船ノ發達ハ鰯漁業ニ依ッテ著シク發達シタト云フコトガ事實デアリマスルカラ、假ニ此處ニ持ッテ居リマスル發動機船數ノ増加率ガ或程度ニ於テ鰯漁船ノ増加率ヲ矢張り意味スルモノト致シマスルト、大正二年二千六百四十七艘アツタ發動機船ガ八年ニ至ッテ三千八百艘ニ殖エテ居リマス、チヨット數字ノ方ヲ勘定イタシマセヌ、以上ヲ少シ考

ヘテ見レバ百ニ對スル百九十八ト云フ率ニナツテ居リマス、鰯漁船ハ一部事實カラ推シテ考ヘテ見マスルト二年ト七年ト比較ベマスレバ、船ノ増大、速力ノ増大ト云フ關係ニ於テハ百ト百九十八ト云フ率、或ハ遙ニ進ンデ居ラウカト思フニ拘ラズ、漁獲高ハ今申上ゲタヤウニ寧ロ停止ノ狀態デアアル、少ナクハナアカト云フヤウナ狀態ニナツテ居ル、斯ウ云フ次第デアリマスルノデ、非常ニ心配シテ居ル譯デアリマス
○委員長(伯爵吉井幸藏君) 今ノ御答辯ニナリマシタ、船ノ殖エタコトト漁獲ノ數量ト比較シテ、二三年分デモ宜シウゴザイマスガ、參考ノ爲ニ
○政府委員(村上隆吉君) 不完全デゴザイマスケレドモ、此統計年鑑ヲ差上ゲマス、マダ政府委員席マデ持ッテ來テ居リマスカラ、皆サンニ差上ゲマセウ
○子爵伊集院兼知君 如何デゴザイマセウ、マダ皆サンモ色々御考モアルヤウデアリマスカラ、今日ハ是デモウ四時ニモナリマスカラ、更ニ開イテ戴クコトニシテハ、如何デアリマセウカ
○委員長(伯爵吉井幸藏君) ソレデハ今日ハ是デ閉會イタシテ、サウシテモウ會期モ切迫シテ居リマスカラ、明日ハ午前十時カラ御願ヒ致シタイ
午後三時五十八分散會

出席者左ノ如シ

委員長	伯爵吉井	幸藏君
副委員長	西久保	弘道君
委員	子爵伊集院	兼知君
	荒川	義太郎君
	男爵本田	親濟君
	男爵赤松	範一君
	平尾	喜三郎君

政府委員

農商務次官	田中	隆三君
農商務省水產局長	村上	隆吉君